

第5回 京北地域小中一貫教育校検討協議会

◇日 時 平成29年2月21日（火） 19：30～

◇場 所 京北合同庁舎 大会議室

1 はじめに

2 傍聴の取扱いについて

資料1

3 前回の協議内容の確認

資料2

4 第4回施設整備検討部会の内容確認

資料3

5 その他（住民説明会の報告等）

資料4

6 次回の日程について

京北地域小中一貫教育校検討協議会の傍聴について（案）

1 趣旨

京北地域小中一貫教育校検討協議会（「専門部会」含む。以下「検討協議会」という。）においては、地元や P T A 等の代表により、真摯な議論が行われ、その状況については「検討協議会だより」で京北地域全戸へお知らせするとともに、配付資料や摘録については検討協議会事務局である教育委員会のホームページ上で公表し、その内容の公開に努めてきたところです。

さらに今回、検討協議会の会議について傍聴を設定することにより、地域の住民の皆様からより一層多様な御意見を頂戴し御理解をいただきながら、本会の議論の進展につなげるものです。

2 傍聴

検討協議会の会議について、開催日時、場所、予定する議題、傍聴を認める人数（定員）等を事前に事務局（教育委員会）のホームページ上に公表します。傍聴する場合の手続等については、以下の傍聴規定に定めます。

【傍聴規定】

1 傍聴する場合の手続等

- (1) 傍聴については、京北地域にお住まいの方を対象とします。
- (2) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開会予定時刻 15 分前までに、会場受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室して下さい。
- (3) 定員を超える傍聴の申請があったときは、抽選により傍聴者を決定します。
定員は、開催会場ごとに定めます。
- (4) 前項に定めるもののほか、検討協議会代表が必要と認めるときは、傍聴を許可することができるものとします。
- (5) 検討協議会代表は、協議の内容に個人や法人その他の団体等に関する情報が含まれ、会議を公開することにより当事者又は第三者の権利等を害するおそれがある場合、会議の一部又は全部を非公開とすることができます。

2 会議を傍聴する場合の注意事項等

- (1) 会議開催中は静粛に傍聴し、発言や騒ぎ立てる等の行為、また拍手その他の方法等による可否の表明等、議事進行の妨げになる行為は行わないこと。
- (2) 会場において、傍聴者が写真撮影、録画、録音等を行わないこと。
- (3) その他、会議の支障となる行為を行わないこと。
- (4) 傍聴者が以上の注意事項に違反したときは、退場いただきます。

第 4 回（12 / 14）の協議内容

1 第 2 回，第 3 回施設整備検討部会の内容確認

第 2 回施設整備検討部会では，アプローチ（昇降口）の位置と普通教室の向きが異なる新校舎の配置 3 案を提示し協議を行い，「アプローチ（昇降口）が中央で普通教室が南向き」が，子どもたちの教育環境に最適であるという意見で一致。

第 3 回施設整備検討部会では，第 2 回での意見を踏まえた新校舎の基本プラン（施設配置・諸室配置）と，外観デザイン 6 案を提示し，協議を行った。

2 第 1 回通学安全検討部会の内容確認

今後，通学方法の検討にあたっては，バス通学において走行する経路（道路）を，現在のふるさとバスが走行している道路とすることを基本とし，乗車対象地区，乗車場所，運行方法等について協議を進め，来年度中に一定の方針をまとめることを確認。

第4回施設整備検討部会（ワークショップ）の内容について

1 日時・場所

平成28年12月14日（水）20：00～20：30 京北合同庁舎 大会議室

2 出席者

検討協議会メンバー，4小中学校PTA役員・教頭，保育所保護者会長
京都市教育委員会・都市計画局，（株）類設計室

3 説明概要

(1) これまでのワークショップでの意見を踏まえ計画の基本方針を説明。「①京北のシンボルとなる学び舎」「②京北の自然を活かした，木のぬくもりを感じる学び舎」「③地域に開かれ，地域と共につくる学び舎」「④子ども・地域にとって，安心・安全な学び舎」とする。

(2) 第3回施設整備検討部会（ワークショップ）の振り返り（外観，基本プラン）

(3) 配置計画・外観デザイン

○施設・諸室配置

- ・南側校舎中央に，小中一貫教育校の顔となる玄関口を設置
- ・サブグラウンド，プールは校舎の近くに
- ・テニスコートは2面確保しメイングラウンドに近接
- ・各所に駐車スペースを確保
- ・外の景色がよく見えるランチルーム

○外観デザイン

- ・ウッディー京北前交差点から見て地域のシンボルとなる時計台を設置
- ・周辺の山並みに馴染む勾配屋根
- ・周辺の景観と調和するアースカラーの色彩 など

4 意見・質疑応答

- ・校舎のそばに教育活動の主たる施設が集まった良い計画になった。
- ・屋根や階段の融雪設備，駐輪場の配置について今後の設計で検討を求める。
- ・玄関の階段は可能な限り緩やかにすること，サブグラウンドに遊具を設置することなどを確認した。

5 確認・決定事項

- ・施設整備の基本方針として出席者全員が拍手で了承した。
- ・今年度中に本基本方針を基に教育委員会で基本計画を取りまとめる。
- ・施設整備の基本方針を「協議会だより」で地域の皆様にお知らせする。今後，意見をお寄せいただく可能性もあるため，また，設計段階で計画の一部が変更されることがある。

●計画の基本方針

計画の基本方針

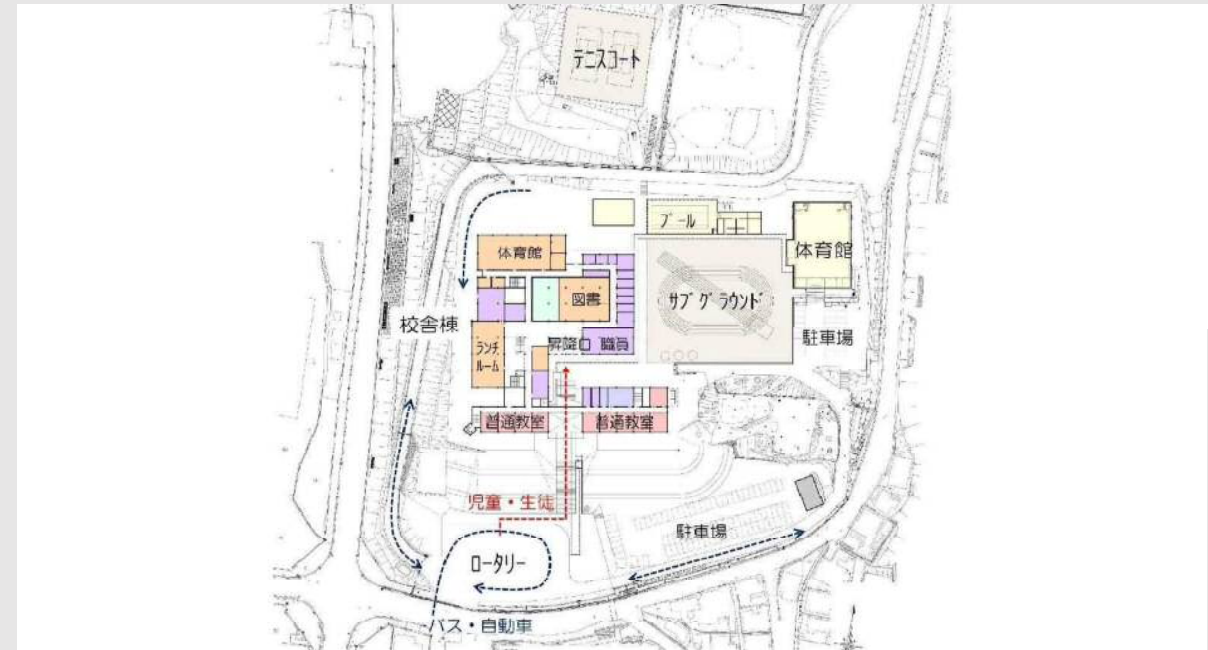
京北のシンボルとなる学び舎

京北の自然を活かした、木のぬくもりを感じる学び舎

地域に開かれ、地域と共に作る学び舎

子ども・地域にとって、安心・安全な学び舎

●配置計画



●外観デザイン



敷地南西角の交差点付近から見た外観イメージ図

●外観デザイン



校舎南側玄関口の近景イメージ図

※計画を進める中で、変更となる可能性があります。

京北地域小中一貫教育校に関する説明会摘録

1 日 時 平成29年1月29日（日）10：30～13：00

2 場 所 周山中学校 体育館

3 参加者 49名

4 主 催 学校・教育委員会

5 説明内容

(1) 京北地域小中一貫教育校教育構想素案 資料①

これまでの4小中学校の取組も活かしながら、下記に記載するような取組を通して、京北地域から未来を切り拓く子どもの育成を目指した教育活動を展開する。

また、統合前から、児童生徒の交流等に積極的に取り組み、それを充実・発展させながら、小中一貫教育校の教育活動につなげていくため、今年度から実施している、合同学習の充実やクラス分け授業について、それらの取組の様子を説明。

<特色ある取組（例）>

- ア 小学校と中学校の教員が協働で取り組む9年間の教育活動の中で、1年生から9年生までの縦割り活動によるピア・サポート学習
- イ 体験活動などを通して地域の伝統文化をしっかりと守っていく子どもたちを育て「京北ふるさと未来科（仮称）」の創設
- ウ 3保育所や北桑田高校との連携推進
- エ 京北の豊かな自然や歴史、文化等を活かした食育、環境教育
- オ これからの国際化社会で活躍できる力を育てるための英語教育の充実 など

(2) 施設整備（施設整備検討部会での検討状況等）資料②

第1回から第4回の施設整備検討部会での検討内容及びそれを基に取りまとめた施設整備の基本方針について説明。

今年度中に、これまでの意見や本日の説明会での意見等を参考に基本計画を策定する。

(3) 通学安全（通学安全検討部会での検討状況等）資料③

第1回通学安全検討部会での検討内容について説明。バス通学において走行する経路は、現在ふるさとバスが走行している道路を走行することを基本とし、今後、乗車対象地区の検討等を行う。

6 会場からの意見

- 市会で付帯決議が付いたにもかかわらず、今回が初めての説明会。今後、地域住民の意見・要望をどのようにくみ取るのか。定期的に説明会を開催してほしい。

- スクールバスと地域の公共交通の在り方について、同時に議論されていることに驚いている。また、基本方針に「スクールバスを確保」との方針が示されていない。親が送迎している現状も踏まえ、登下校に必要なバスをしっかりと確保していただきたい。
- 教員時代、大雪警報やその解除に伴い登校を判断する際には、小学生、特に低学年は自分で通学路の安全が判断できないので、教員が通学路の安全点検を行っていた。統合し校区が広がれば、果たして各学年の教員だけで安全点検ができるのか。京北では大雪のことを念頭に通学安全を考えるべき。
- 新校舎の看板（自治振興会がウッディー京北前交差点に設置）の絵を見たが、高雄の焼却場みたい。焼却場はやめてほしい。
- 学校統合の議論で、京北町時代の統合議論を思い出した。当時は、行政からの説明は自信にあふれていたが、今は、説明が暗い。「良い学校を創りたい」という思いが、伝わってこない。地域が学校の草刈りや水路の土砂撤去・滑り台を設置するなど熱い思いで学校を支えている。小中一貫教育校創設に関する話が地域に全く下りていない。説明会を塔（山国地区）でやっていただきたい。
- 京北出身や地域在住の教員を一定の割合で採用する制度としてほしい。「まち」からの先生も一生懸命やっけていいていて、地元の伝統等を理解していない。地域の知恵の伝承のため、また、先日の大雪では京北への道が寸断されたことを考えると、通学路の安全確認等も、地元出身でないと分からない。地域に先生が住んでいると心強い。
- 夏休みのプールに行くためには、(今でも夏休みはスクールバスがないため,) 黒田からでは親が送迎している。こうした住んでいる場所による制限をなくしてほしい。僻地に視点を置いて検討を進めて頂きたい。
- これまでの検討協議会や施設整備検討部会での議論の中身が全く見えない。教育構想を聞いていても、障がいのある子どもに配慮した教育が検討されているようには感じない。同様に、新校舎はユニバーサルデザインの視点で検討されているのか。高台に、長い階段を設けて新校舎を建設すること自体が障がいのある子に対する配慮がなされていない。大きなアプローチ階段は壁にしか見えない。エレベーターは一番上まで行けるのか。もっと住民の意見を聞く場を設けてほしい。
- 先日京都新聞出版からの「学びやタイムスリップ」という本にも感銘を受けた。ぜひとも小中一貫教育校の実現をお願いしたい。
- 検討協議会の会議をただ傍聴するだけでなく、意見が言えるように公聴会という形で検討していただきたい。
- 昨年度開催された小中一貫教育校の教育構想素案に関する説明会では、統合せずに3小学校のままで実践可能であることや、英語教育への疑問、教員が確実に減る中で素案に示されたバラ色の教育構想が実現可能なのか、学校と地域の連携は今まで通り保てるのかといった指摘があった。今日の説明を聞いて、その当時の説明から改善された内容を感じない。単に話を聞いておきますという形だけでなく、

しっかりと修正されて良いモノにならないと意味がない。

- 昨年3月に、京都市のこれまでの学校統合の議論では初めて、市会で予算執行に関する付帯決議が決議された。付帯決議の意味をもう一度考えて頂きたい。今日の説明会も、間もなく始まる29年度の予算審議で、「こういうことをしてきました」と説明し、来年度予算を通すために開催したのではないか。
- 地域に支えられ、少人数で丁寧な指導が行われている山国が素晴らしいと思い、引っ越してきた。大冨市と同じ面積の京北で、なぜ学校を1校にするのか全く理解できない。新校舎や通学の話以前の問題として、学校が1つになってしまうことにまだ納得できていない。(1/21新聞折込、退職教職員有志60人の名前が記載されたビラ「わたしたち退職教職員は住民不在の小中一貫校構想を見過ごすわけにはいきません」を手に)退職教職員の方々が自分の名前を出して、このまま進めてよいのかと言っている。私はこの熱意に賭けたい。
- 学校統廃合の構想を完全に否定しているわけではない。ただ、なぜ今、素晴らしい二小を潰してわざわざ遠い学校に行かせるのか理解ができない。
- 教育委員会はきれいなことばかり言っているが、先日の大雪の間、親が学校まで送迎を行っていた。なぜ教育委員会は、その時にバスを出さずと言ってくれなかったのか。今すぐできることをやっていないのに、先のきれいな事を言われても納得できない。
- 統合することに対して納得できないという意見が出たことを議会でもしっかり報告して頂きたい。
- 先ほどの発言は、嫌味で言った。雪道の通学は子どもたちにとってどれだけ危険だったのか分かっているのか。なぜ今回の大雪で休校にしなかったのか。7校のときにできた安全点検が3校になってできなくなり、さらにそれを1校にすると言う。子どもの命を何やと思っているのか。警報が解除されたら、教員は安全確認もせず、登校して来いと言う。自分の子どもは大切なので親や地域は協力する。それに胡坐をかいている学校や教育委員会はいかがなものか。
- 説明会に参加できない保護者から手紙を預かっている。また、一小の保護者が校長に手紙を渡しに行ったところ、校長ではなく教育委員会に渡すようにと伺っている。
- 小さい子がいるのでこの説明会に来られない保護者が多数いる。保育の場所もない。来ても意見が言えない方が大多数である。議論する場がないのも現状。説明会の動画を欠席した保護者とシェアし、出てきた意見を伝えたいし建設的な会話がしたい。その窓口を中心的な方をお願いしたい。出てきた質問とそれに対する回答を公の場でお願いしたい。
- 「検討協議会だより」は、その次の検討協議会開催日の1週間前までに配布するべき。この説明会の内容も住民に広報していただきたい。パソコンができない人への配慮もお願いしたい。
- 施設整備の基本方針に「木のぬくもり」とあるが、二小の木のぬくもりのある校舎を参考にしたい。

- 「地域に開かれた」とあるが、二小のように門扉を必要としない、誰でも入ってくるができる学校を考えて頂きたい。
- 保育所保護者が直接議論に関わる機会がさほどないまま話が進んでいる。当事者となる小さい子を持つ保護者が議論する場を設けてほしい。
- 地域の組織の代表者が関わり検討協議会で議論いただいているが、その代表者は事前に組織内で話し合った上で会議に臨んでいるわけではない。今回のような説明会の機会をもっと持っていただきたい。学校と地域の思いをぶつけ合い、より良い京北の教育を考えていきたい。住民の意見をくみ上げて頂く場を保障していただきたい。検討協議会の傍聴も認めて頂きたい。また、京北には立派な校舎があるのに、新校舎を建設するのは税金の無駄使いである。

7 教育委員会・学校からの回答

- **【住民説明会の開催について】** 施設整備方針の取りまとめ等に時間を要し、説明会開催がこの時期になったが、今後も検討協議会の進捗状況を踏まえて説明会を開催する予定である。
付帯決議を重く受け止め、業務の執行にあたっているところであるが、この説明会は、29年度予算を審議する2月市会のための足跡残しで開催しているものではない。そうした姿勢で臨むことは、今日集まって頂いている方々にも、これまで検討協議会や専門部会において、夜遅くまで議論して頂いた方々にも失礼だと考えている。本日は、これまでの議論でまとめて頂いた内容をできるだけ早く皆様にお伝えし、この場でもご意見をいただき、より良いものにしていくために開催させていただいたものである
- **【検討協議会だよりの配布や会議のお知らせ、傍聴等について】** 検討協議会だよりの配布は京北自治振興会に協力いただき、毎月1回、各地区への定例配布に頼らざるを得ない状況である。学校統合推進室のホームページにできるだけ早く摘録等を掲載するとともに、次回会議の予定等も案内してまいりたい。ホームページをご覧になれない方への対応については、検討する。
また、これまでの検討協議会及び専門部会の摘録、資料を学校統合推進室のホームページで公開している。また、会議の傍聴について、次回の検討協議会で方向性を決めて頂くことを考えている。
ご意見があれば検討協議会の事務局である学校統合推進室や学校に伝えていただきたい。それに対する回答も含め、内容の公開や共有方法等については内部での検討が必要である。教育委員会に意見を伝えて頂ければ、内容に応じて担当課がしっかり対応させていただく。
- **【通学安全について】** 子どもの通学をしっかりと保証することを第一に考えているが、地域における公共交通の在り方も大きな課題であると認識。検討部会でも、路線バスの充実とスクールバスとしての確保の両方意見を頂いている。路線バスもスクールバスもふるさと公社への委託であり、乗務員の確保等も含め、一体的に検討する必要があると考えており、今後、学校ごとに説明会を開催するなど、保護者の意見をしっかりと聞きしながら丁寧に検討を進めていきたい。また、各地域・学校の事情を踏まえ、現在の保護者の負担が軽減できるように検討していきたい。
- **【教員の採用、教育構想素案等について】** 京北出身の教員を一定の割合を決めて採用することは、制度

上不可能である。

一方で、地域の伝統や文化等を子どもたちが学ぶ取組については、地元の達人の方の協力も頂きながら、教員とも連携して、地域ぐるみの教育活動を実践して取り組んでいきたい。

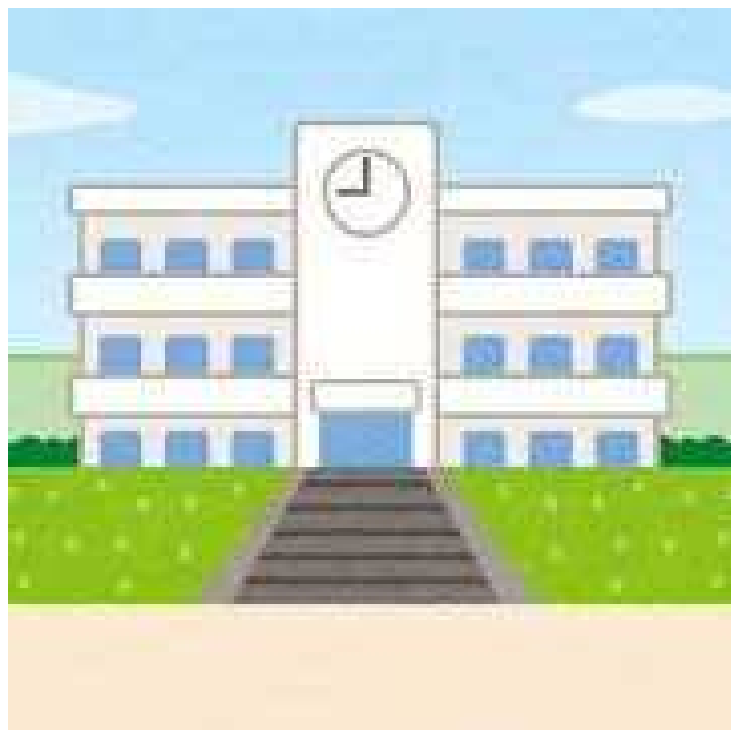
また、各学校では、少人数のため子どもたちの意見が刺激し合えないなか、今年度、合同学習の取組の充実と、クラス替えを通じた授業を実施しており、前回の教育構想素案から一歩進んだ取組を行っている。今後も更に教育構想素案を充実させていきたい。

- 【施設整備について】バリアフリーの校舎とし、ユニバーサルデザインの観点で施設整備を行う予定である。また、バスロータリーからエレベーターを使って教室まで行けるように計画している。木の活用についても、京北には素晴らしい校舎があるので、参考にさせていただく。また、ワークショップでは、セキュリティ強化、不審者対策の意見が出ている。

- 【大雪への対応やこれからの教育の進展等について】現在、4小中において、警報に伴う休校の取扱いは徹底されており、混乱はない。学校は、倒木や道路の積雪状況なども確認している。私自身も見回りを行った。京北に赴任して7年目になるが、今回のようなケースは初めてで、地域の方からもそのように聞いている。そうした想定外の大雪のなかであったが、保護者の皆さんは非常に協力的であり、学校に負担を求めるようなことはなかった。また、先ほど京北出身の教員でないと、という意見もあったが、今「まち」から来ている教員も、熱心に頑張っている。この雪でも教員は、道が寸断されても園部回りで時間通り出勤している。一方で、平成30年度から英語科が始まり、道徳は特別な教科になるなど、ここにお集まりの皆さんが経験したことがない教育がこれから始まる。退職教員の方々の地域に学校が必要という考えもあるが、現役の教員も、これから誰も経験していない教育の中で、子どもたちのために何が一番良いかを考え、子どもたちの将来を見据え、コミュニケーション能力を高めていくことが重要であることから、統合し小中一貫教育校を創設することを我々からも提案させて頂いたものである。これまでの京北の少人数教育を否定しているわけではない。「まち」から通勤している教員は京北を大事にしており、地域・保護者にも協力いただいている。この関係を大事にしていきたい。

京北地域小中一貫教育校 教育構想素案

京都市立京北第一小学校
京都市立京北第二小学校
京都市立京北第三小学校
京都市立周山中学校
京都市教育委員会





ゴミ0の取組(京北第一小)



読書週間(京北第二小)



朝会の様子(京北第三小)

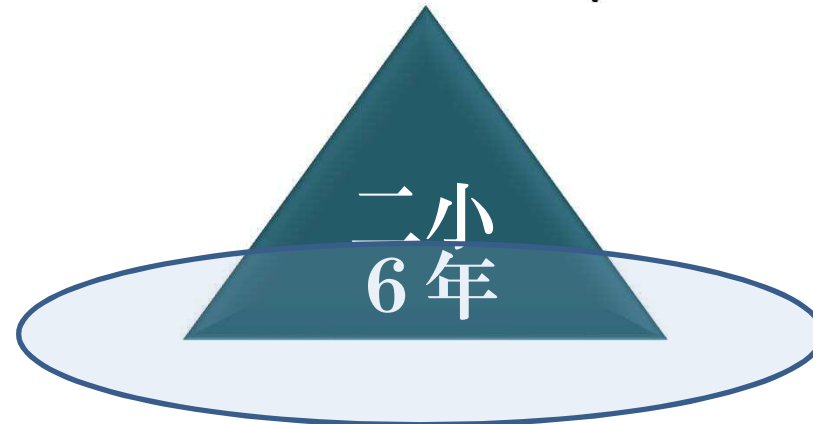
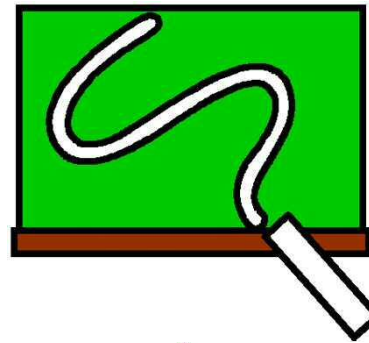
京北の子どもたち

- あいさつがしっかりできる。
- 素直でまじめに努力する。
- 学級の友だちとの結びつきが深い。
- 様々な学習の場で活躍している。
- 学年をまたがって仲良く遊んでいる。

- 男女比が偏ってしまう。
- 学習で多様なグループ活動ができにくい。
- 多様な意見にふれあう機会が少ない。
- 人間関係が固定化しがち、同級生同士で刺激を与え合う機会が少ない。

同じ学年の子どもたちが集まって、共に学び考える一つの授業をつくっていく。

共に学ぶ



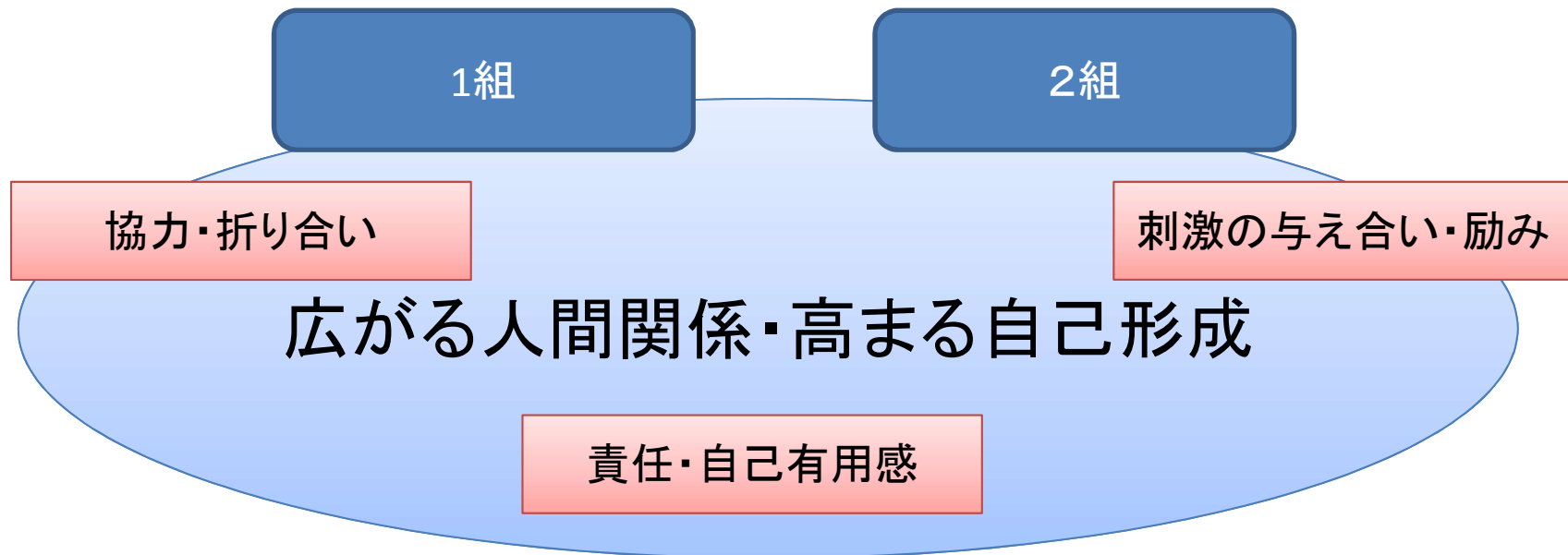
周山中学校で

クラス分け・グループ分け
の体験

例えば…… クラス替えを通して

新たな気持ちでスタートと気持ちの切り替え

クラス替えが「新たな仲間づくり」や「新たな学び合い」
「新たな自分の発見」を生み、人間関係を広げていく。



今後の教育活動の大きな軸

ICT機器の活用

Active Learning
アクティブラーニング

基礎基本の学力

授業交流を行い、今後より大切にされる授業方法を取り入れていく。

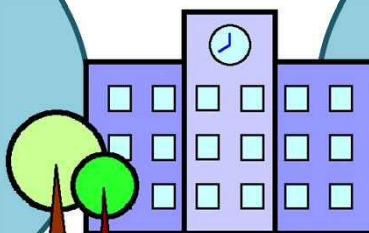
■ 探究的なプロセスで問題解決に向かう深い学び

■ 他者との協働や外界との相互作用による対話的な学び

■ 見通しをもち粘り強く取り組み次につなげる主体的な学び

楽しさ実感！

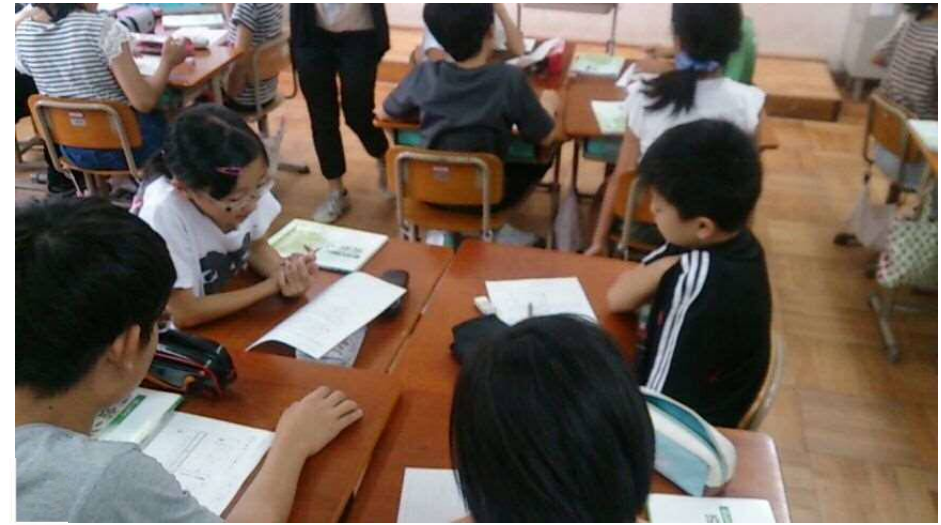
明日もまた
通いたい
学校



楽しさが学ぶ意欲に！

これからも
続けたい
学び





様々な形態での
学習が可能

～一斉学習からグループ討議へ～

～体育科を通じた集団演技, チームプレー～



一斉学習からグループ討議, 集団演技, チームプレーの学習など, 様々な形態での学習を行っていく。



～9年生が1年生に読書指導～



～1年生が9年生に卒業のお祝いを渡す～

小中一貫教育校ならではの縦割り合同活動に取り組んでいく。



～全校合同体育学習～

小中一貫教育校へ向けた“今から”の取組の充実

本年度「サマースクール」として
これまでの取組を一層深める

○5年生（7月29日実施）
砂川小学校5年生との交流
※6月の交流に引き続き実施
（京都府警警察学校）

○5・6年生（8月22日実施）
京都市たんけん隊
※京都の歴史に触れる「銀閣寺見学」
日本の鉄道史に触れる「京都鉄道博物館」

○6年生・中学校生徒会（8月9日実施）
リーダー研修会
※生徒会のメンバーから中学校生活を学ぶ

3つの小学校の子どもたちが混
じったグループで学習する。

周山中学校オープンスクールで
クラス分けを通じた授業を体験。

教科を選択（英語科・数学科・理科）し、（1月11日実施）
合同授業を受ける。

小中一貫教育校へ向けた“今から”の取組の充実

本年度からの新たな合同学習

1・2年生合同社会見学（10月5日実施）

※京都水族館の見学

一緒に感動体験

今後教科学習へと発展

授業等の交流促進

※3年生「社会科」昔の道具調べ合同学習

「国語科」漢字の学習合同学習（2月1日）

※6年生 京北第一小に集まりクラス分け

「理科」「音楽」の学習を実施（10月21日実施）

学びの交流・広がり

今後周山中での授業交流へと発展

子どもの感想より～合同学習を終えて～

みんなたくさん発表していろいろな見方があっておもしろかったです。粉はかたまりがたくさんありました。予想はずれてしまったけれど、みんなで楽しくできました。・・・

子どもの感想より～合同学習を終えて～

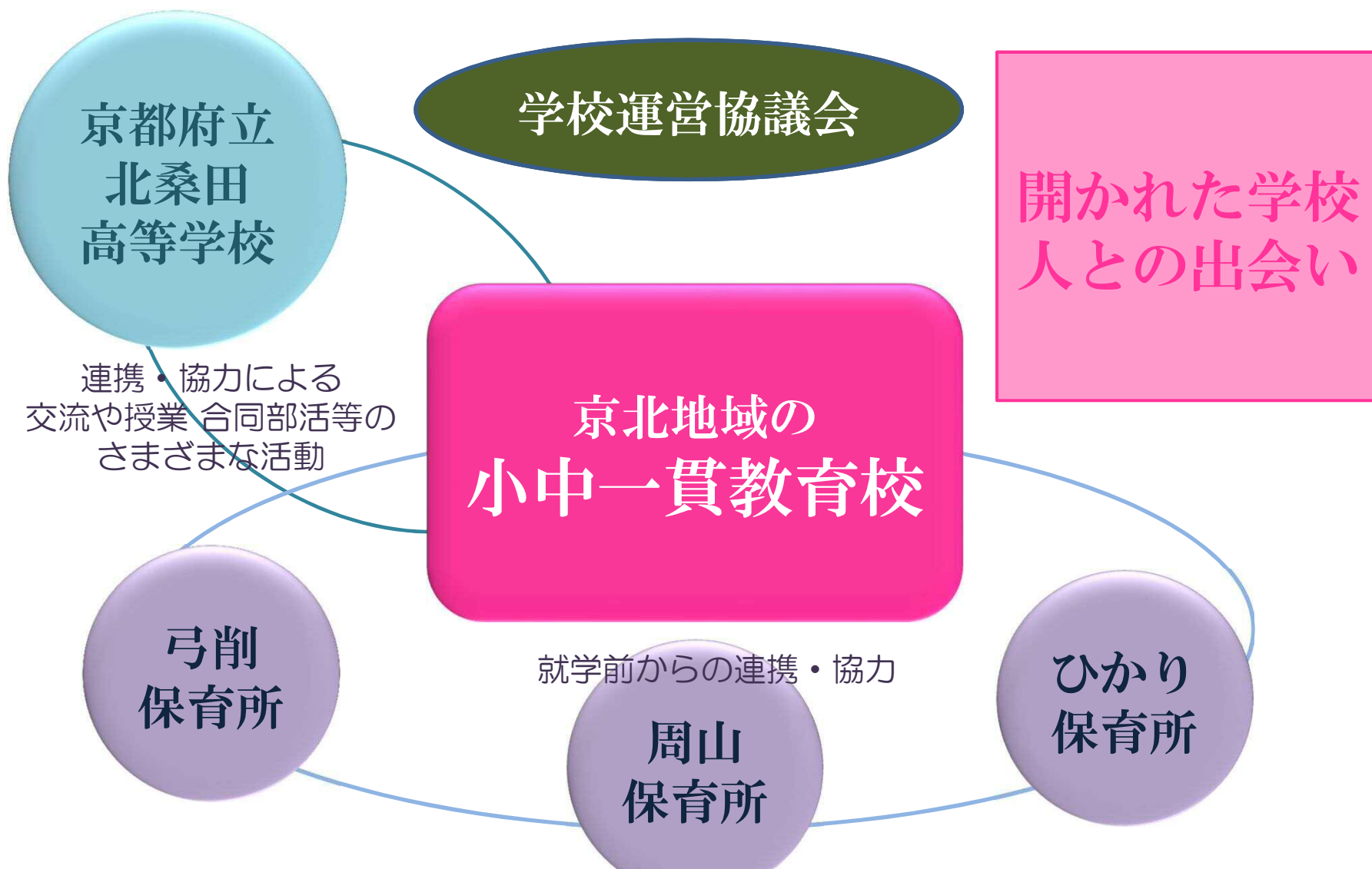
この合同学習を受けて、ぼくら二小の六年生10人だけなら、理科の結果や気付いたことを言えるけれども、三校合同でやると、新しい発想があるので、より勉強が楽しくなるなと思いました。

また、いつもと違う友達と授業を受けるので、楽しく活動することが出来ました。・・・

子どもの感想より～合同学習を終えて～

いつもの授業とは違い、少しきんちょうもありました。行ったときはまだ20分休みだったので一小の人や二小の人と話をして待っていました。チャイムが鳴って、一小の人のあいさつから三時間目の授業が始まりました。まず予想を立てました。いつもとはちがう人で考えも深まりました。実験もみんなで協力し、成功させることが出来ました。・・・

京北地域小中一貫教育校の目指すもの



保育所や京都府立北桑田高等学校とも連携を行い、「開かれた学校として様々な人との出会い」を大切にする。

人との出会い

自己の未来を
創る礎となる
力を培う

地域・社会・世界

保護者PTA
地域の人々

京北
キャリア
教育
の推進

大学
企業
団体

連携・協力による
新たな学び

こんな授業で・こんな活動で

1年
生活科
きせつと
あそぼう

9年
生き方探究
チャレンジ
体験

弓削
保育所

周山
保育所

ひかり
保育所

お兄さんやお姉さんはすごいな！

学校ってどんなところかな？

保育所が
共に生きる学びの場に



京北の町に美しい音楽がひびく

高等学校

部活動・吹奏楽部

中学校

部活動・音楽部

小学校

京北・まちの音楽隊

保育所





小学校

中学校

高等学校

自転車の
まち
京北

交通安全
子ども自転車
全国大会

自転車教室
自転車
キャンプ

部活動・自転車競技部

保育所



自転車をツールにして
発達段階に応じた取組を！

キッズバイク 全国大会





現在の取組をさらに充実・発展させながら，次の小中一貫教育校の教育活動につなげていく。



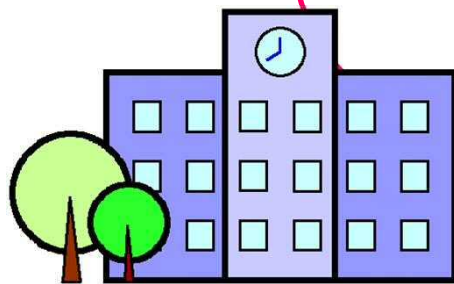
京北地域から
未来を担い
グローバル社会を
切り拓く
子どもを育成

小中一貫教育校として
京北地域ならではの
特色ある教育を実現

「京北から」
の教育
「世界から」
の教育

京北だから
こそその教育

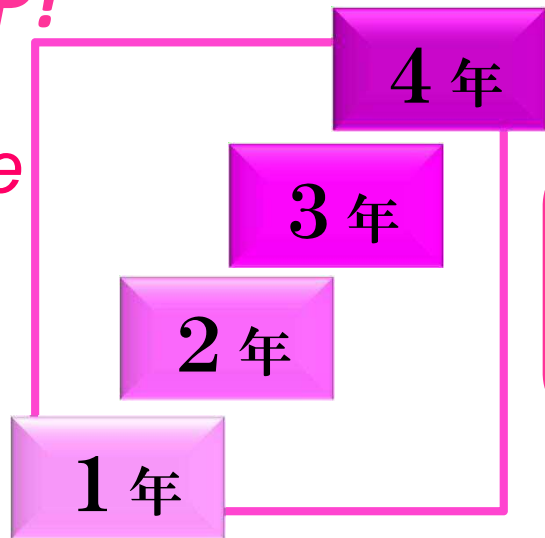
義務教育9年間の
一貫した教育方針の下
施設一体型の学舎で
「確かな学力」 (知)
「豊かな心」 (徳)
「健やかな体」 (体)
を育成



9年間の
小中一貫教育
施設一体型

④ × ③ × ②
という新たな
ステージで
取り組む。

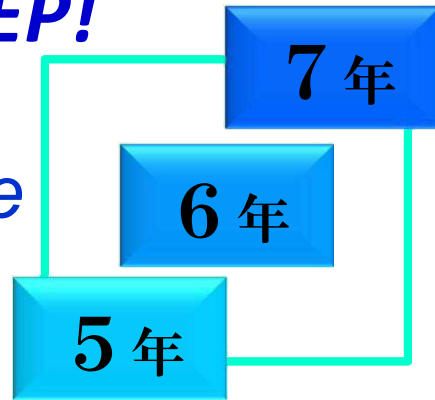
HOP!
1st
stage



「学びの基礎 基本」
「基本的な生活習慣」
「集団生活のきまり」
を身に付ける

学びの基礎を身に付ける

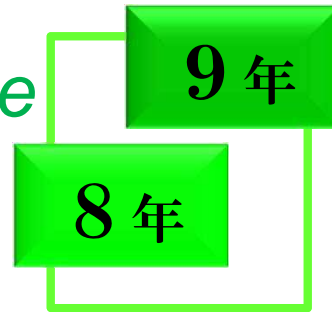
STEP!
2nd
stage



基礎 基本の充実・向上・発展
世界をひろげる 可能性をひろげる

学びを広げる・深める・高める

JUMP!
3rd
stage



将来の夢の実現に向け
自ら考え 判断し 行動する

今を知り 未来を見つめて
行動する

施設一体型
小中一貫教育校



特色ある取組

小学校の教員と
中学校の教員が
協働で取り組む

9年間の

小中一貫教育



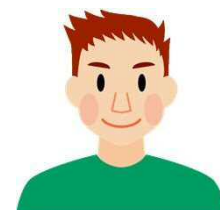
5年

6年

7年



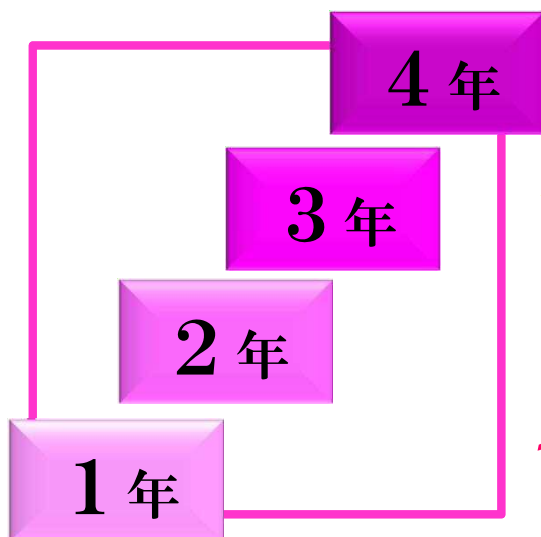
3
2nd stage



8年

9年

2
3rd stage



4
1st stage

小学校の高学年から
中学校の教員による**一部教科担任制**を
小学校担任教員が
連携・協力して取り組む

一人一人の状況に応じて
9年間の継続的な指導・支援
育成学級・LD等通級指導教室

特色ある取組

これからの
国際化社会・情報化社会に
生きる力



- 小学校1年生から英語に親しむ
- 表現力や対話力を培う授業
- 論理的思考力やコミュニケーション能力を高める授業
- 積極的に人とかかわる人間関係形成力を培う授業



国際理解を深め
国際社会へとつながる学習

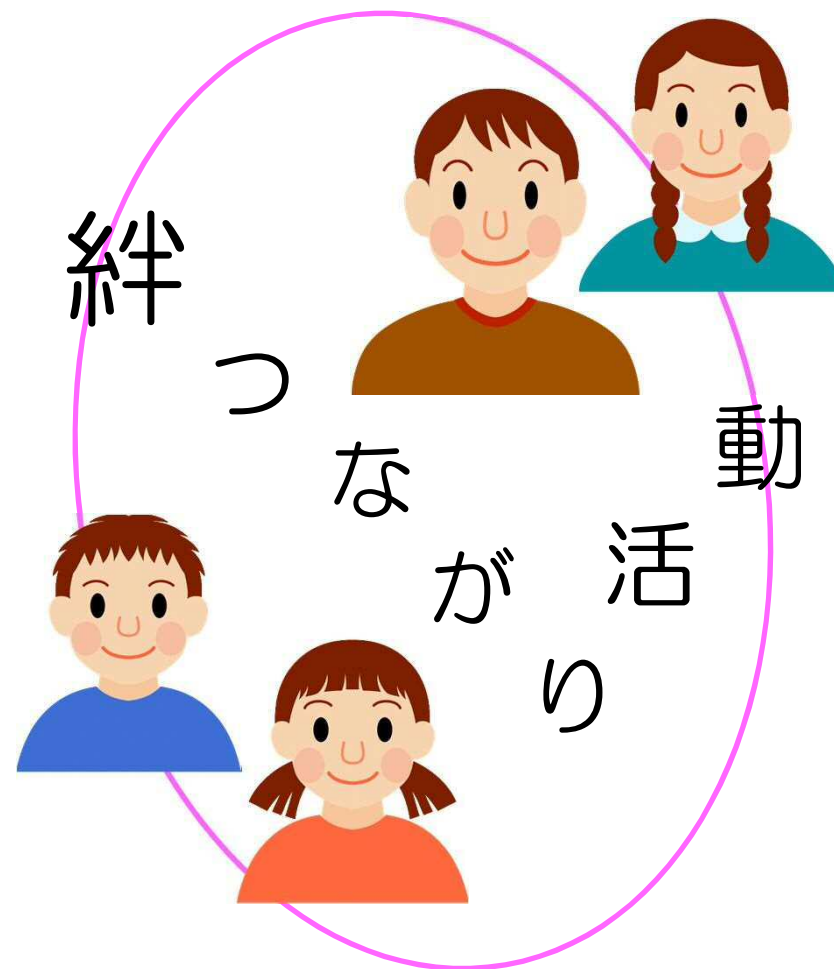


グローバル社会で活躍する
人材を育てる

ピア・サポート

9 学年が同じ学舎に集う
施設一体型・小中一貫教育校
京北地域ならではの
異年齢集団による縦割り活動

- 自己有用感や仲間意識を高める
- この活動を活かして積極的に
地域の取組や諸行事に参画し
地域とのかかわりをより深める



合同
合唱

合同
競技
体育大会

給食
清掃
当番活動

協働
学習
授業・学習

児童会
生徒会
特別活動

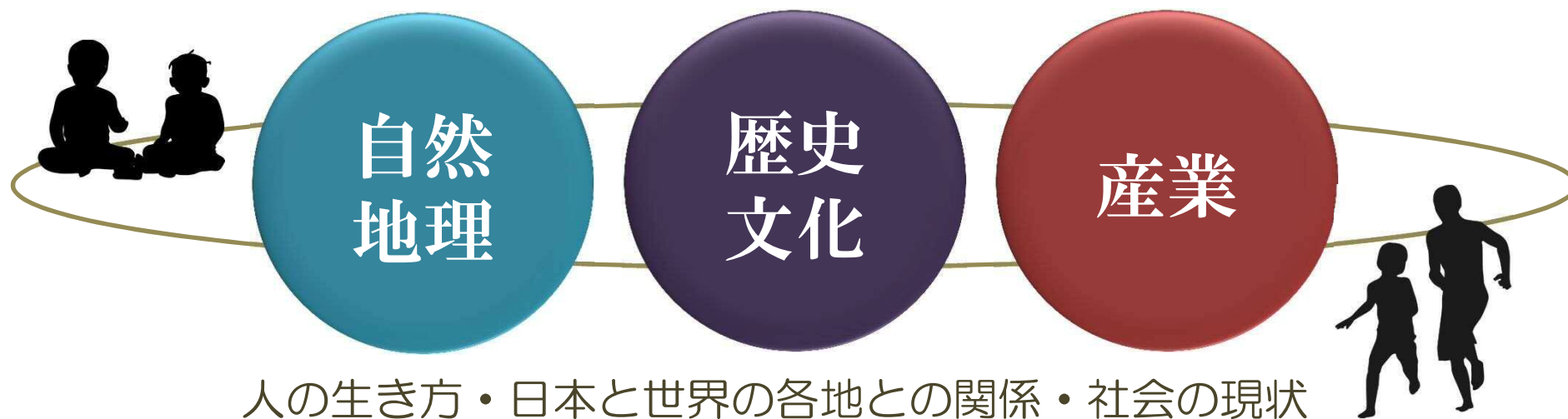
部活動
クラブ

地域
交流

京北ふるさと未来科〈仮称〉

生活科・総合的な学習の時間から

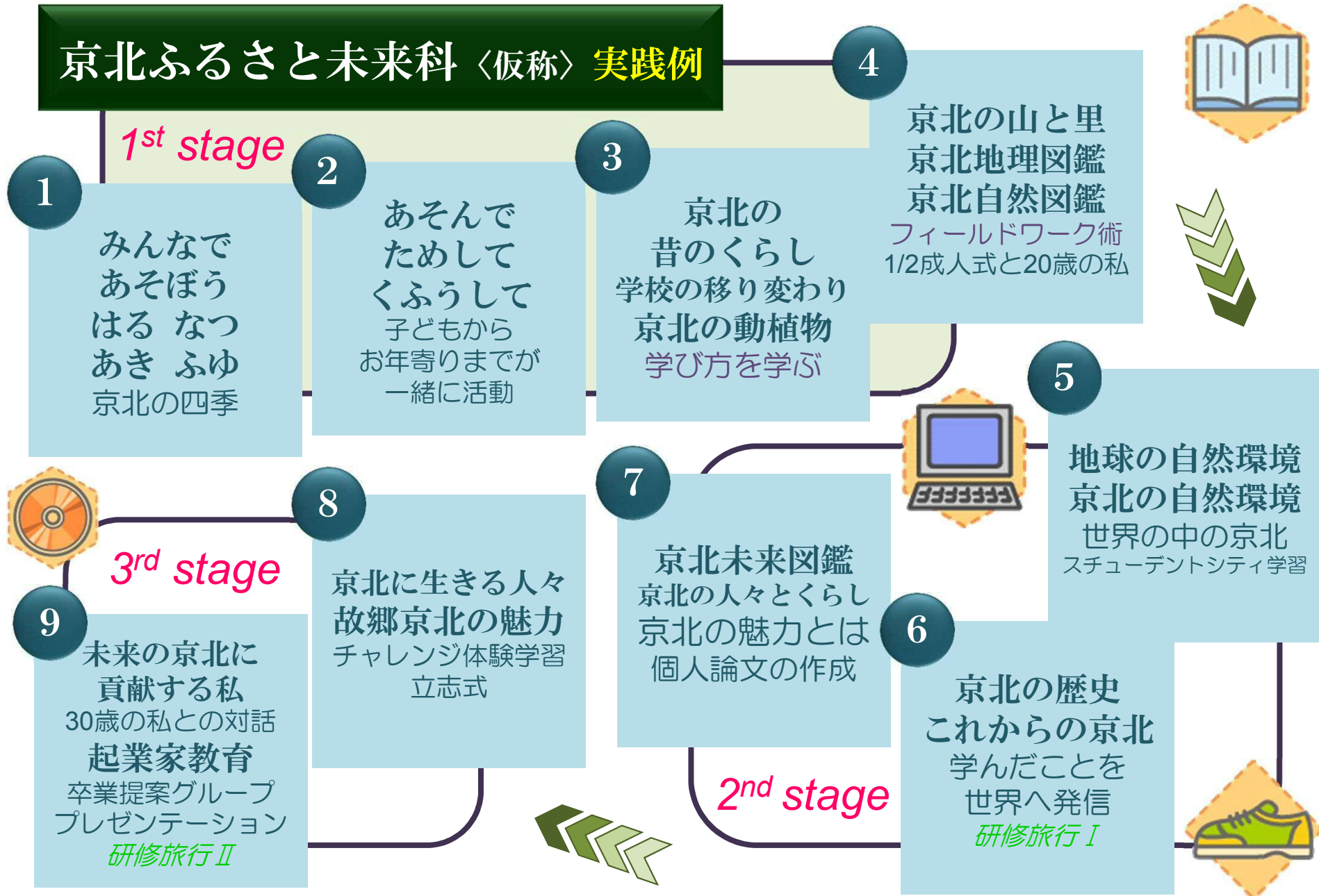
京北各地域(周山 細野 宇津 山国 黒田 弓削)の



「京北の発展する未来の姿を構想する子」
「京北地域の活性化に貢献する子」を目指し、京北ふるさと未来科(仮称)を創設する。

特色ある取組

京北ふるさと未来科〈仮称〉実践例



京北里山食育学習 〈仮称〉



9 学年全員に自校調理給食を実施
季節を味わう行事献立
京北産食材を用いた地産地消の献立

4 小中学校の
これまでの取組に
ならって

保護者・地域の人々
と連携・協力して

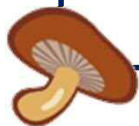
食に対する正しい知識



地域に根ざした
野菜栽培の活動

実践例

収穫した野菜の
調理や販売



食文化への理解と感謝



京北自然体験・環境教育

京北の豊かな自然環境を活かした学習の推進
4小中学校で実践されている活動の継承発展
体験を体験に終わらせない、意味を考える話し合い活動の重視

実践例

- 川遊び 鮎つかみ
- 芋ほり



実践例

- 山岳における体験的な活動
- 登山技術習得の学習

実践例

- 天体観測
- 星ふるる里・京北





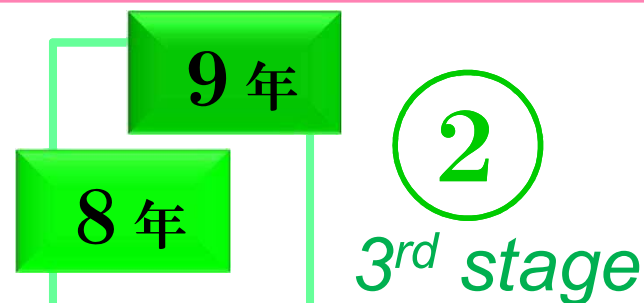
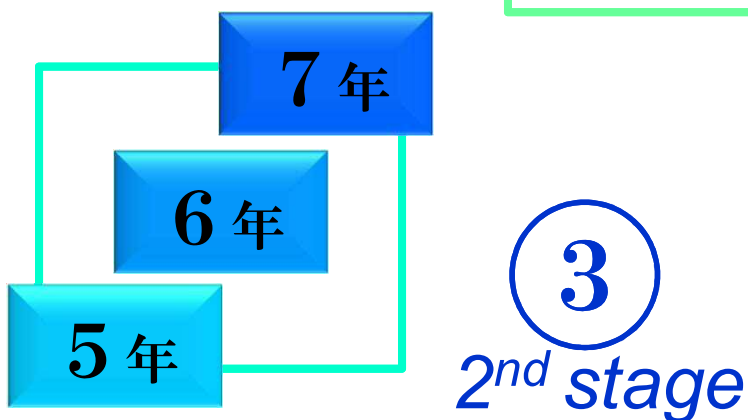
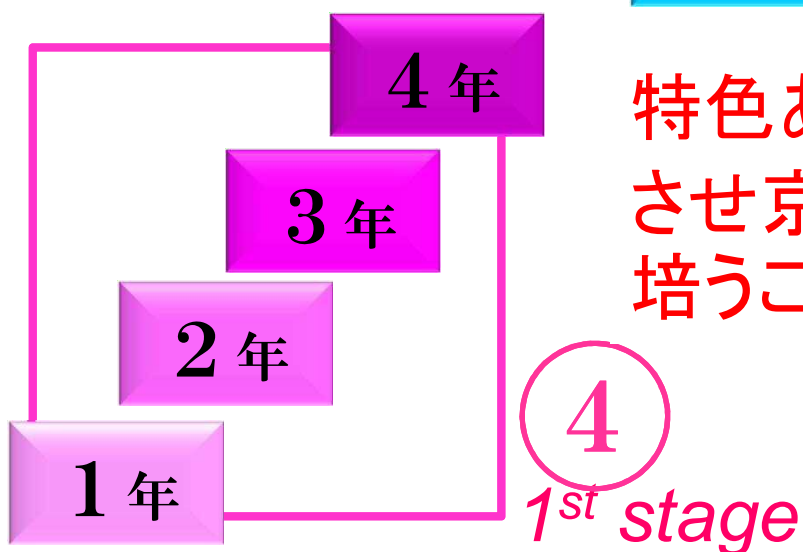
<京都 京北未来かがやきビジョン> ～図書のみち構想～

京北地域には子どもから大人まで本に親しんできた素地があります。これらを活かし住民の方々の積極的な参加・運営のもと、本に親しむことができる京都一の図書のみちを目指します！

施設一体型・小中一貫教育校創設の意義

京北の豊かな教育力

9年間の
小中一貫教育
施設一体型の
教育施設



特色ある取組をさらに充実・発展
させ京北の子どもたちに確かな力を
培うことのできる学校体制を目指す。

京北地域小中一貫教育校 教育構想素案

京都市立京北第一小学校

京都市立京北第二小学校

京都市立京北第三小学校

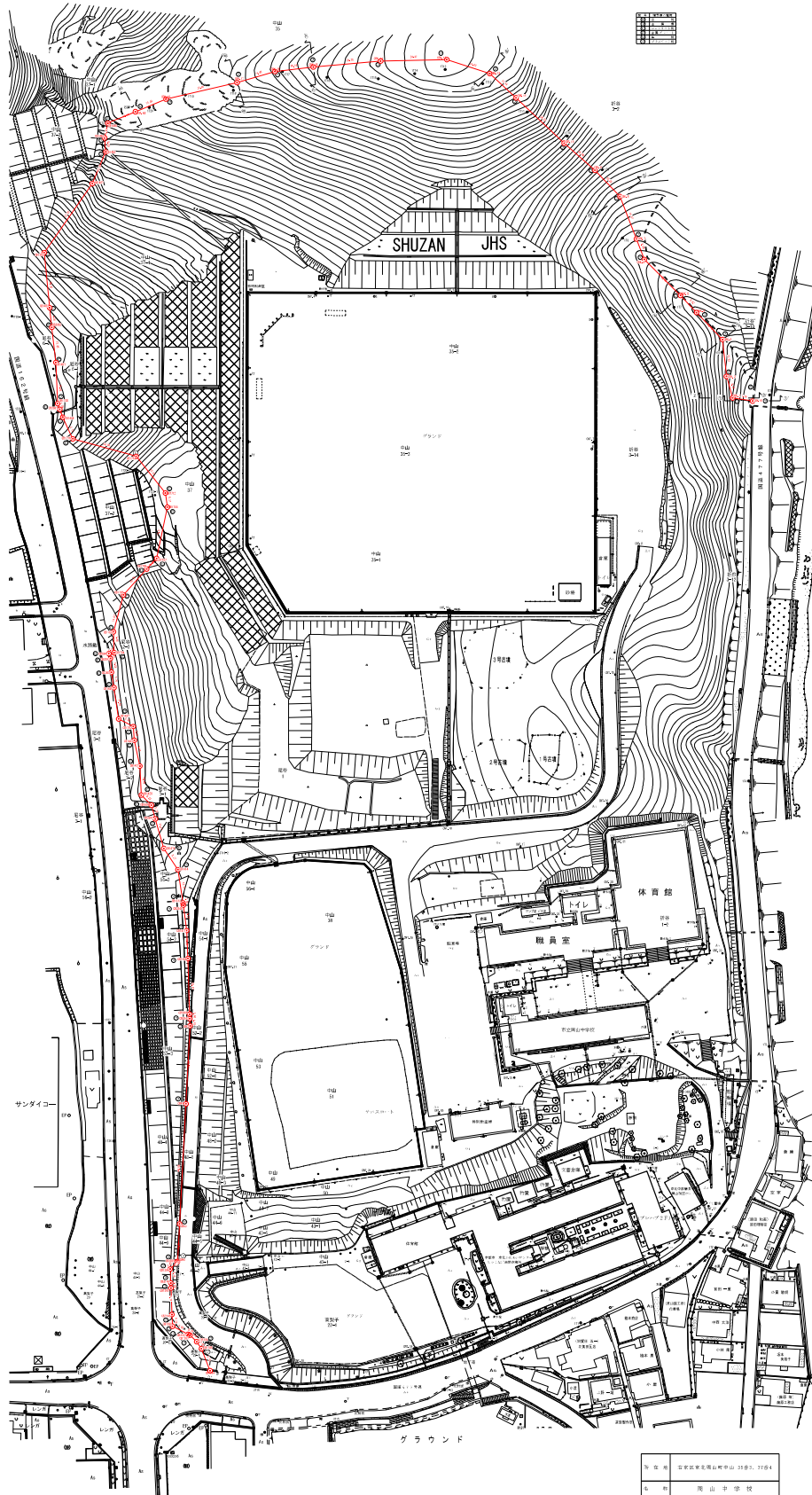
京都市立周山中学校

京都市教育委員会





周山中学校現況平面図



所在地	宮城県栗原市周山町 35番1、31番4
名称	周山中学校
建築年	平成27年(西暦2015年)4月
種別	中学校
建築面積	約 1,000㎡

京北地域小中一貫教育校 ワークショップ

第2回テーマ

～新校舎の配置計画を検討しよう～

第1回ワークショップのまとめ

【地域開放】

- 地域も使える図書室
- 地域、PTAが活用できるスペース
- ナイター設備、駐車場の確保
- 開かれた学校

【安心・安全】

- バリアフリー
- ストレッチャーの入るエレベーター
- 安全なバスロータリーの設置
- 雨に濡れない施設間の移動
- 積雪、凍結対策
- 災害時の設備の確保、防災機能型体育館

第1回ワークショップのまとめ

【自然環境・森林資源を活かす】

- 木材を使った温かみのある校舎
- 明るく風通しの良い校舎
- 天体観察できる校舎
- 自然エネルギーの利用
- 化石燃料を使わない設備（ペレットストーブなど）
- 広場・庭園のある校舎

【学年の垣根を越えた交流場所の設置】

- 小中交流できる大きなスペース
- 全校児童、生徒と一緒に食べられるランチルーム
- 地産地消の給食
- 小中一緒の広い図書室

第1回ワークショップのまとめ

【その他】

- 南向きの教室（明るく気持ちのよい空間）
- ICTの充実
- 広い体育館
- 屋内プール
- 芝生のグラウンド
- 床暖房
- 清潔なトイレ

第1回ワークショップのまとめ

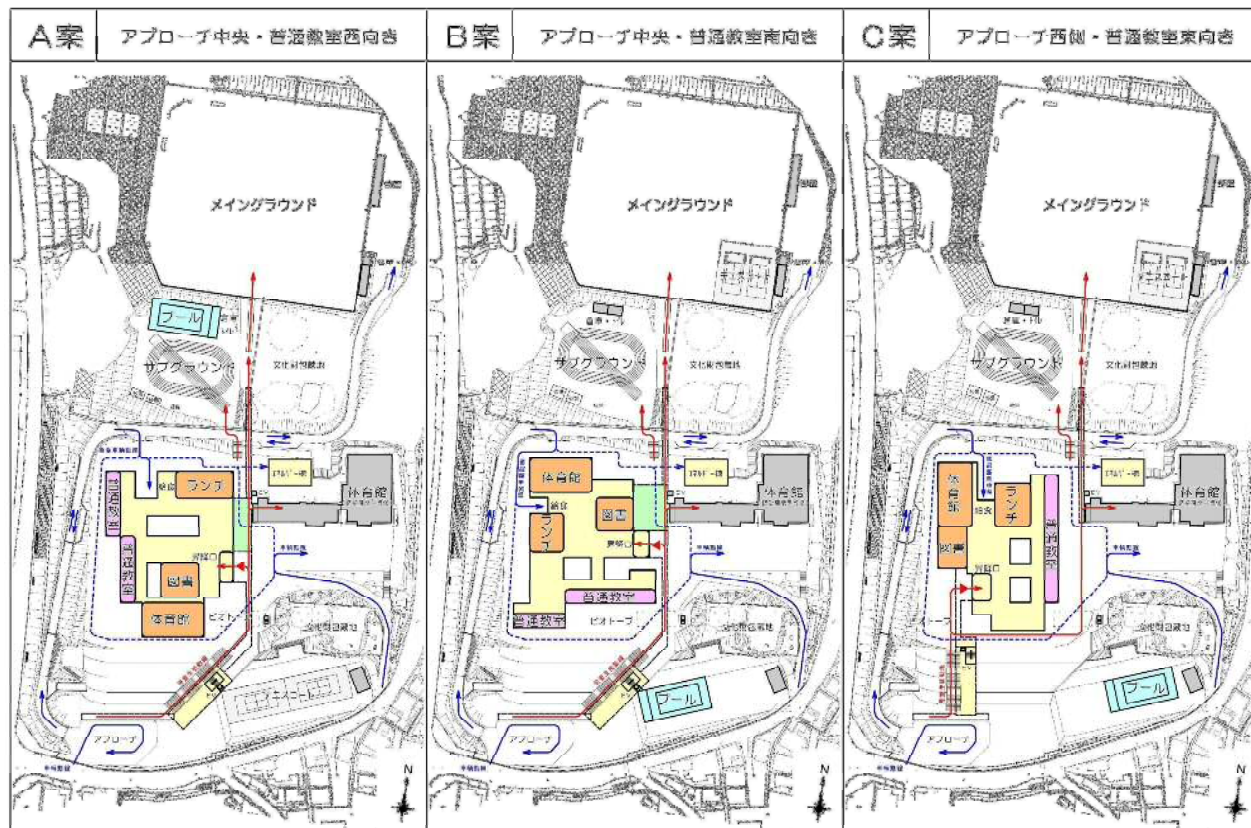
【採用見送り】

- 温水プール
- スケートリンク
- 歩道橋の設置
- 屋根付きエスカレーター
- 風呂
- 雨天練習場
- 全天候型サブグラウンド
- 合宿所
- 地下道の設置
- 売店の設置

敷地の周辺状況



新校舎の配置案



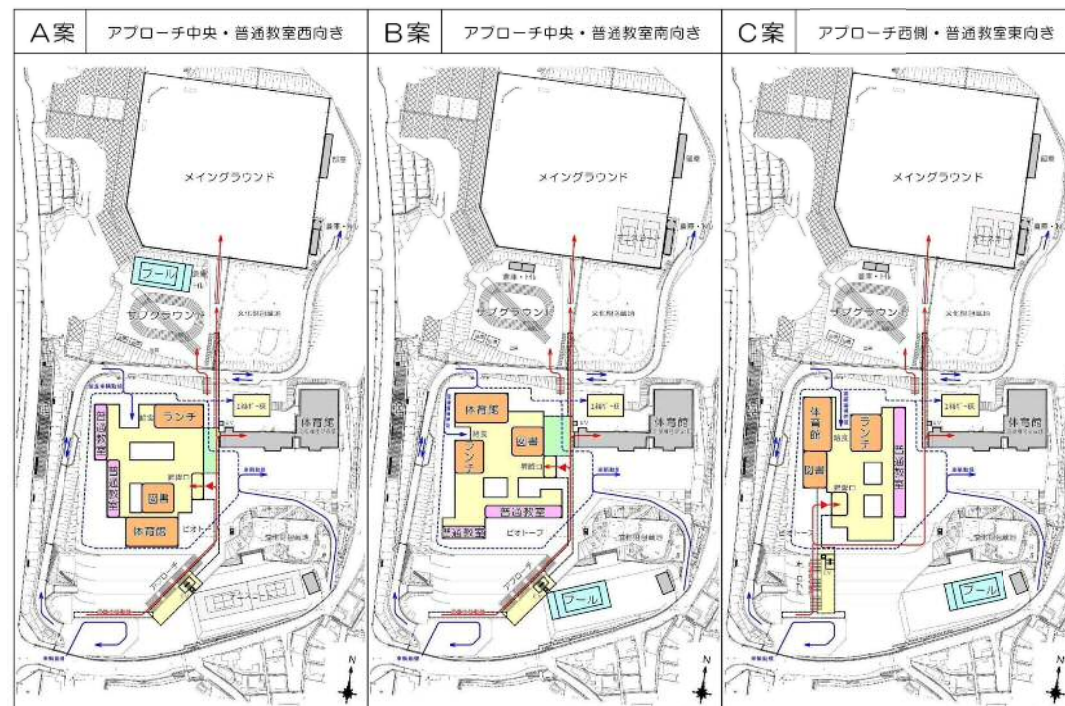
第3回

京北地域小中一貫教育校 ワークショップ

第2回ワークショップの振り返り

-1-

第2回ワークショップの振り返り



A案（普通教室西向き）の主な意見
・西向き校舎は西日がまぶしい。

B案（普通教室南向き）の主な意見
・南向きが明るく、眺望がよい。児童生徒にとって最良の環境を確保したい。
・ランチルームの見晴しがよい。・図書館は昇降口の近くがよい。
・アプローチは中央からがよい。

C案（普通教室東向き）の主な意見
・動線が複雑でよくない。・東向きは眺望がわるい。

↓
児童生徒にとって最良の環境を確保
⇒B案（普通教室南向き）の校舎配置を反映

第2回ワークショップの振り返り

★もっとこうして欲しいというポイント

①【グラウンド】についての意見

- ・メイングラウンドは現状のままだがよい。
- ・体育祭ができる大きさのグラウンドにしたい。
- ・野球4面できるグラウンドにしたい。

②【テニスコート】についての意見

- ・テニスコートは旧周山小跡地につくる。
- ・メイングラウンド以外にテニスコートを配置したい。

-4-

第2回ワークショップの振り返り

★もっとこうして欲しいというポイント

③【プール】についての意見

- ・プールは、既存校舎を解体した跡地に設けてはどうか。
- ・プールは、職員室から見える体育館の南がよい。
- ・プールは、安全性と移動性を考えると校舎の近くがよい。

④【体育館】についての意見

- ・体育館は、2つあるとよい。
- ・体育館は、雨や雪でグラウンドが使えない場合があるので利用が重複しても多くの生徒が使えるように残した方がよい。

-5-

第2回ワークショップの振り返り

★もっとこうして欲しいというポイント

⑤【既存校舎】についての意見

- ・旧校舎、体育館をとりこわし、児童の遊び場を確保したい。
- ・全て新しい校舎で学ばせたい。

⑥【遊び場】についての意見

- ・昇降口の近くに遊具を配置し、児童の遊び場にしたい。
- ・児童が休み時間にすぐに遊べる外のスペースがほしい。

-6-

第2回ワークショップの振り返り

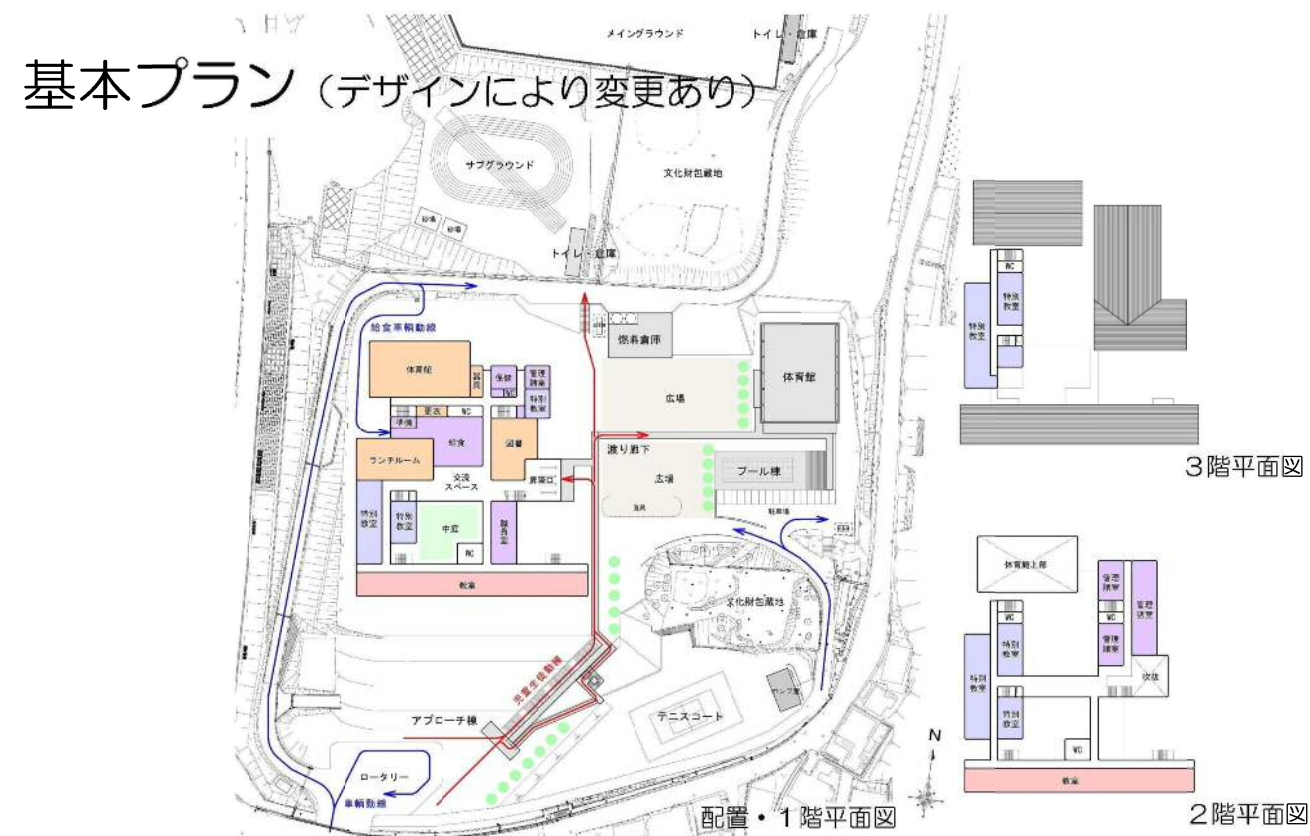
★もっとこうして欲しいというポイント

⑦【その他】についての意見

- ・不審者進入防止策、セキュリティの強化が必要。
- ・駐車スペースを広くとってほしい。
- ・東側の車が通る場所がせまい。広くしてほしい。
- ・京北の木材をつかった校舎にしてほしい。
- ・文化財包蔵地に公園や遊歩道を整備してほしい。

-7-

第2回ワークショップの意見を踏まえて
【基本プラン】を確認

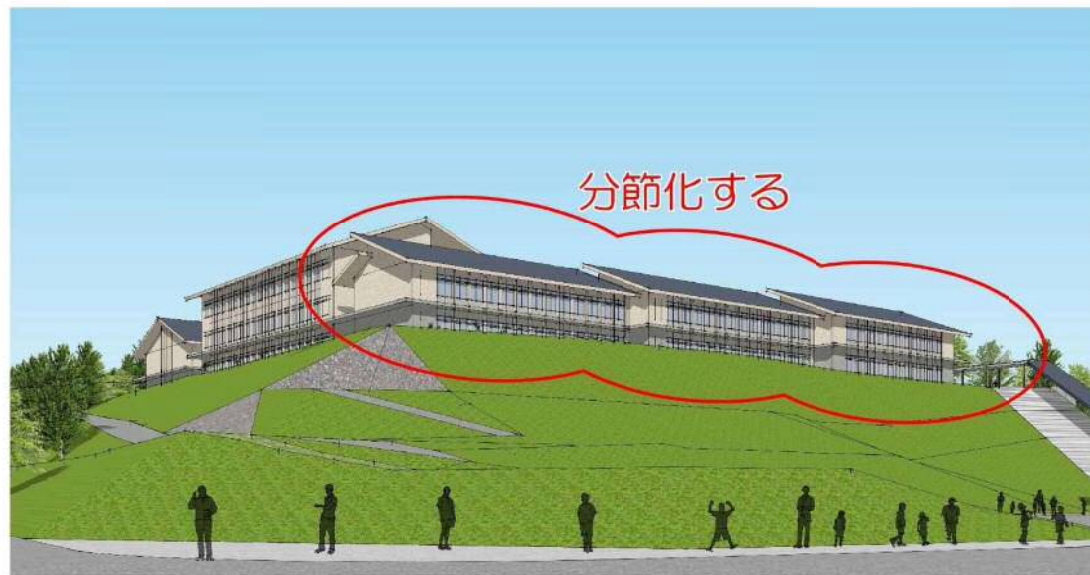


外観デザイン①案
～丘と一体となった
のびやかな水平ラインを強調したデザイン～

【基本プラン】を前提にデザインの方向性を提案
特に重要となるのが交差点からの見え方

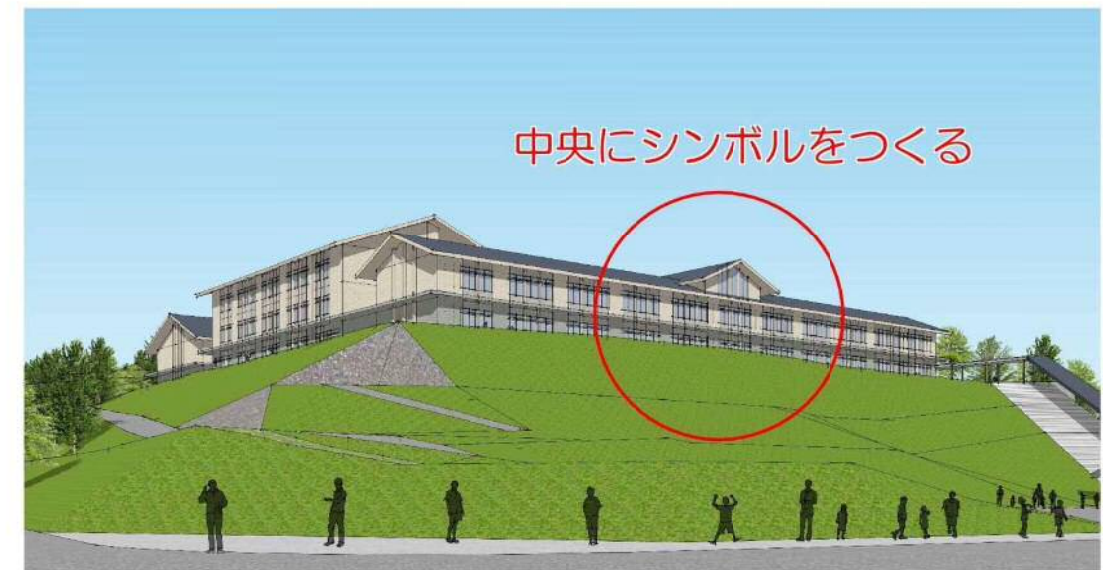


外観デザイン②案
～山の稜線になじむ分節デザイン～



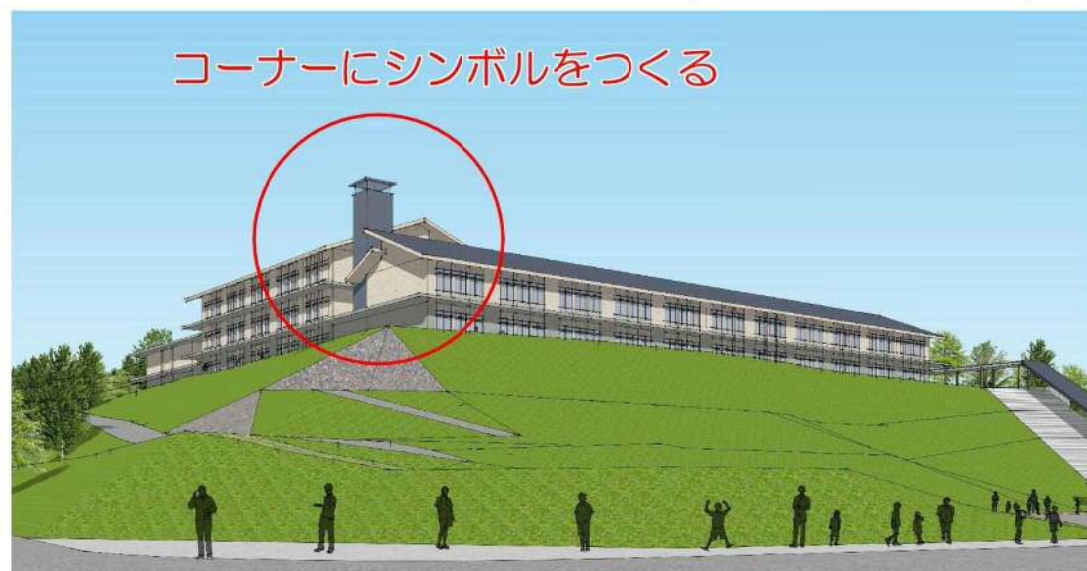
-12-

外観デザイン③案
～存在感・シンボル性を重視したデザイン～



-13-

外観デザイン④案
～水平ラインを強調したデザイン
にシンボル性を加えたデザイン～



-14-

外観デザイン⑤案 ～③案と④案を組み合わせたデザイン



-15-

外観デザイン⑥案 ～③案と④案を組み合わせたデザイン
(中央を大きくした場合)



-16-

皆さんからのアイデア・意見をお聞かせください。

全体説明は以上となります。

-17-

第4回

京北地域小中一貫教育校 ワークショップ

計画の基本方針

京北のシンボルとなる学び舎

京北の自然を活かした、木のぬくもりを感じる学び舎

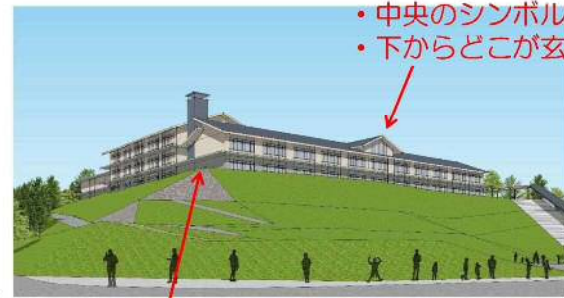
地域に開かれ、地域と共につくる学び舎

子ども・地域にとって、安心・安全な学び舎

-1-

第3回ワークショップの振り返り

⑤案 ~③案と④案を組み合わせたデザイン



- 中央のシンボルに玄関をつくりたい
- 下からどこが玄関か分かるようにしたい

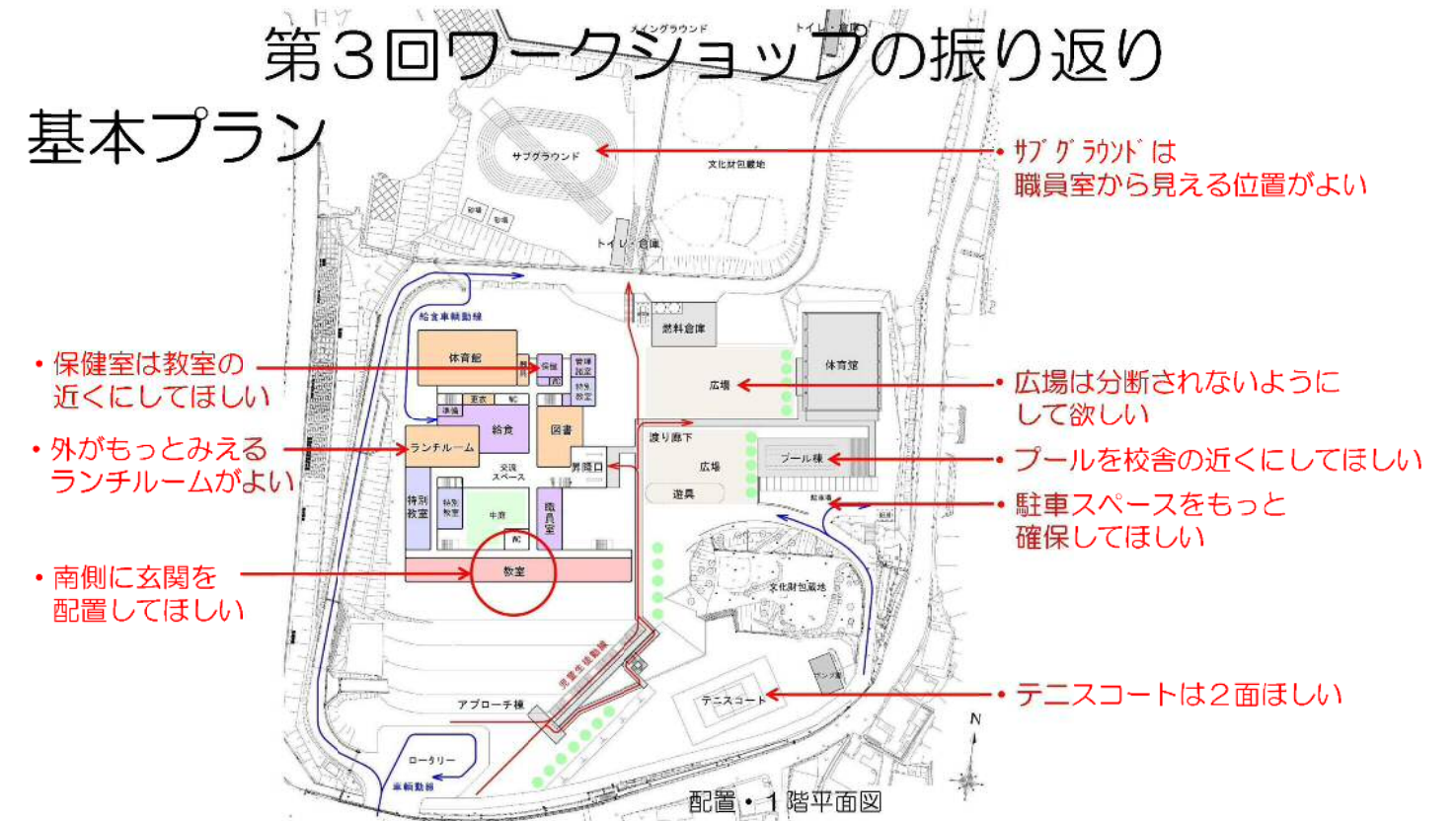
- コーナーにシンボルは必要
- 地域のシンボルがほしい
- 時計がほしい

⑥案 ~③案と④案を組み合わせたデザイン
(中央シンボルを大きくした場合)



-2-

第3回ワークショップの振り返り 基本プラン



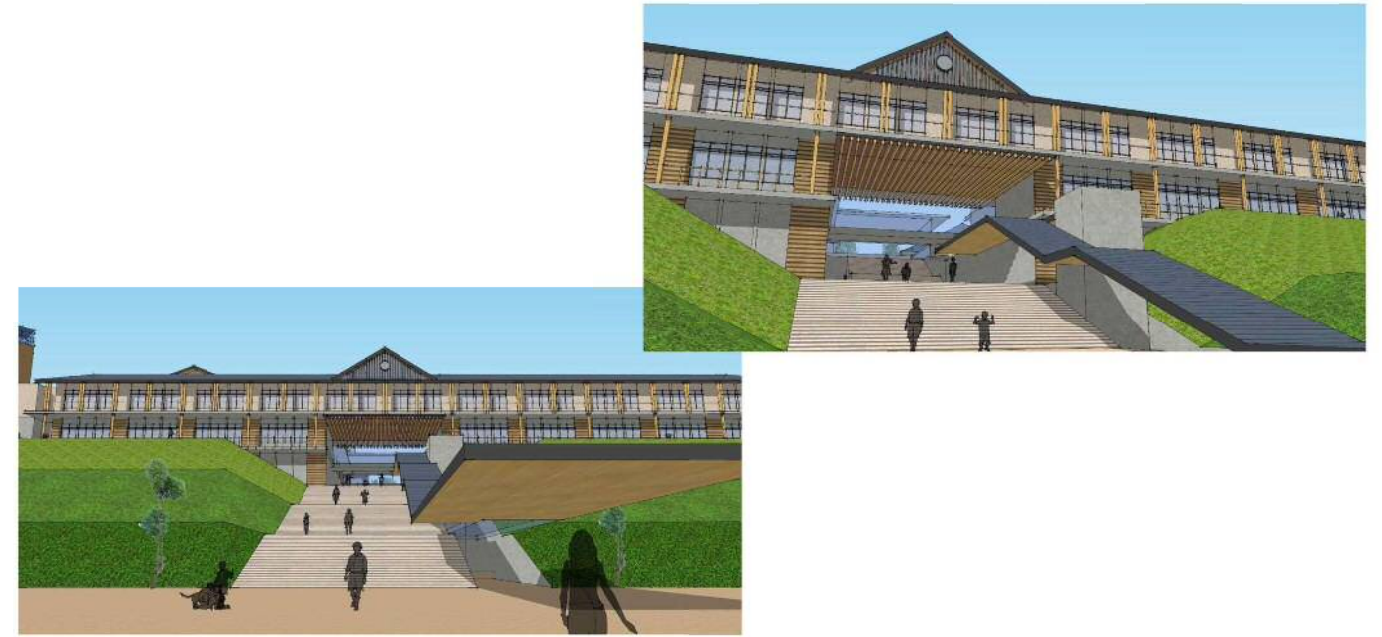
-3-

配置計画



-4-

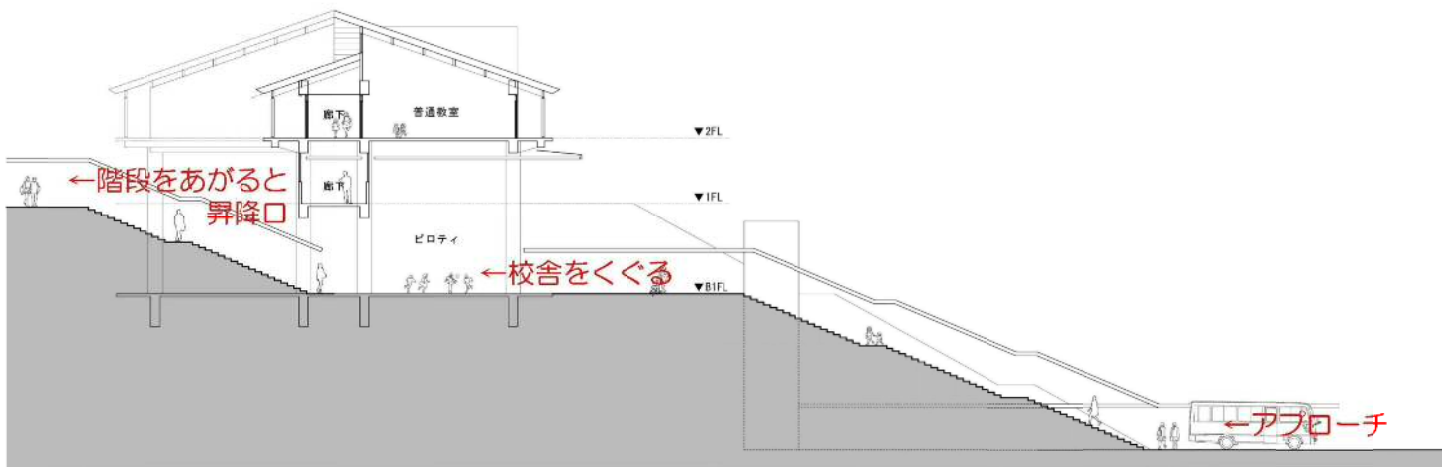
外観デザイン



校舎南側玄関口の近景イメージ図

-5-

アプローチ断面計画



-6-

外観デザイン



敷地南西角交差点付近から見た外観イメージ図

-7-

「第1回 通学安全検討部会」 の内容について

京北地域小中一貫教育校検討協議会

1 日時・場所

平成28年11月21日(月)20:40~21:35
京北合同庁舎 大会議室

2 出席者

- ・通学安全検討部会 ...資料1
- ・京都市教育委員会調査課・学校統合推進室, 都市計画局歩くまち京都推進室

3 基本的な考え方

- ・学校統合により, 遠距離通学となる児童について, 教育活動に支障のないよう, 公費負担により登下校に必要なバスを確保する。
- ・京北地域小中一貫教育校の子どもたちの通学に関して, 本部会で検討を進める。
- ・通学方法の検討は, 32年度の開校を見据えた場合, 準備期間を考慮し, 29年度中に方針を決定したい。

4 説明概要

- ・京北地域における通学の現状...資料2
- ・京北地域の公共交通の現状, 取組み, 課題...資料3
- ・バス通学において走行する経路の提案...資料4

資料1 京北地域小中一貫教育校検討協議会学安全検討部会名簿<21名:敬称略>

6自治会代表	勝山 正昭	周山自治会長
	岡本 義博	宇津自治会長
	高乗 政廣	弓削自治会長
	辻 実智之	細野自治会長
	林 寛	山国自治会長
	三間 恭二	黒田自治会長
PTA代表	人見真一郎	27年度京北第一小学校PTA会長
	西川 聡子	28年度京北第一小学校PTA会長
	樋口 泰弘	27年度京北第二小学校PTA会長
	江後 大介	28年度京北第二小学校PTA会長
	中道 知圭	27年度京北第三小学校PTA会長
	宮下 稔	28年度京北第三小学校PTA会長
	田中 正則	27年度周山中学校PTA会長
	山本 春人	28年度周山中学校PTA会長
保育所代表	森 知子	28年度周山保育所保護者会長
	小谷口さくら	28年度ひかり保育所保護者会長
	坂森 亜希子	28年度弓削保育所保護者会長
学校長	藤田 弘明	京北第一小学校長
	佐々木 猛	京北第二小学校長
	田村 淳	京北第三小学校長
	新井 保	周山中学校長

資料2**京北地域における通学の現状****(1) スクールバスの運行**

No.	対象校	対象地区	距離 時間	利用 人数	乗車 定員	車両	備考
1	京北 第一小	矢代線(矢代・宇野地区)	約11km 約25分	7人	15人	バス	住民利用可
2		細野線(細野長野地区)	約10km 約20分	5人	29人	バス	住民利用可
3		細野線(細野余野地区)	約8km 約20分	11人	29人	バス	住民利用可
4		宇津線(宇津地区)	約15km 約30分	21人	29人	バス	
5	京北 第二小	山国黒田線(黒田地区)	約12km 約20分	7人	26人	バス	
臨時	京北 第三小	田貫線(田貫地区)	約6km 約10分	1人	10人	ワゴン1台 を適宜利用	短縮授業日 の下校時の み(年間20 回程度)
	小3校 中1校	通学以外の学校教育活動 (校外活動・中学校部活動 等)の移動		(随時)			

(2) 遠距離通学の児童生徒

京北町時代に定められた地域について、バス通学を認めている。

なお、バスは8路線あり、スクールバスの利用も含めた人数は下表のとおり

(28年度乗車人数)

校名	路線名 種別	宇津線	矢代線	長野線 (細野)	余野線 (細野)	弓削線	小塩線	黒田線	田貫線	計
京北 第一小	ふるさと バス	6	4	(混乗)	(混乗)					10
	スクール バス	21	(混乗) 7	5	11					44
京北 第二小	ふるさと バス						1			1
	スクール バス							7		7
京北 第三小	ふるさと バス								1	1
周山中	ふるさと バス	10	5	5	3	8	21	5	24	81
計		37	16	10	14	8	22	12	25	144

- ・田貫線と弓削線については、一部路線が重複しているが基本は田貫線に乗車
同様に小塩線と黒田線についても、一部重複しているが基本は小塩線に乗車

(3) 冬季のみ路線バスで通学している児童

京北町時代から、積雪等を考慮し冬季のみバス通学を認めている地域

五本松地区(京北第一小) 7名

下地区(京北第二小) 7名

塩田地区(京北第三小) 3名

井崎地区(京北第三小) 4名

上川地区(京北第三小) 0名

計 20名

* 乗車期間は、11月～3月の5ヶ月

(4) 周山中学校の自転車通学

(五本松, 百ノ角, 下, 鳥居地区)...17名

〈参考〉

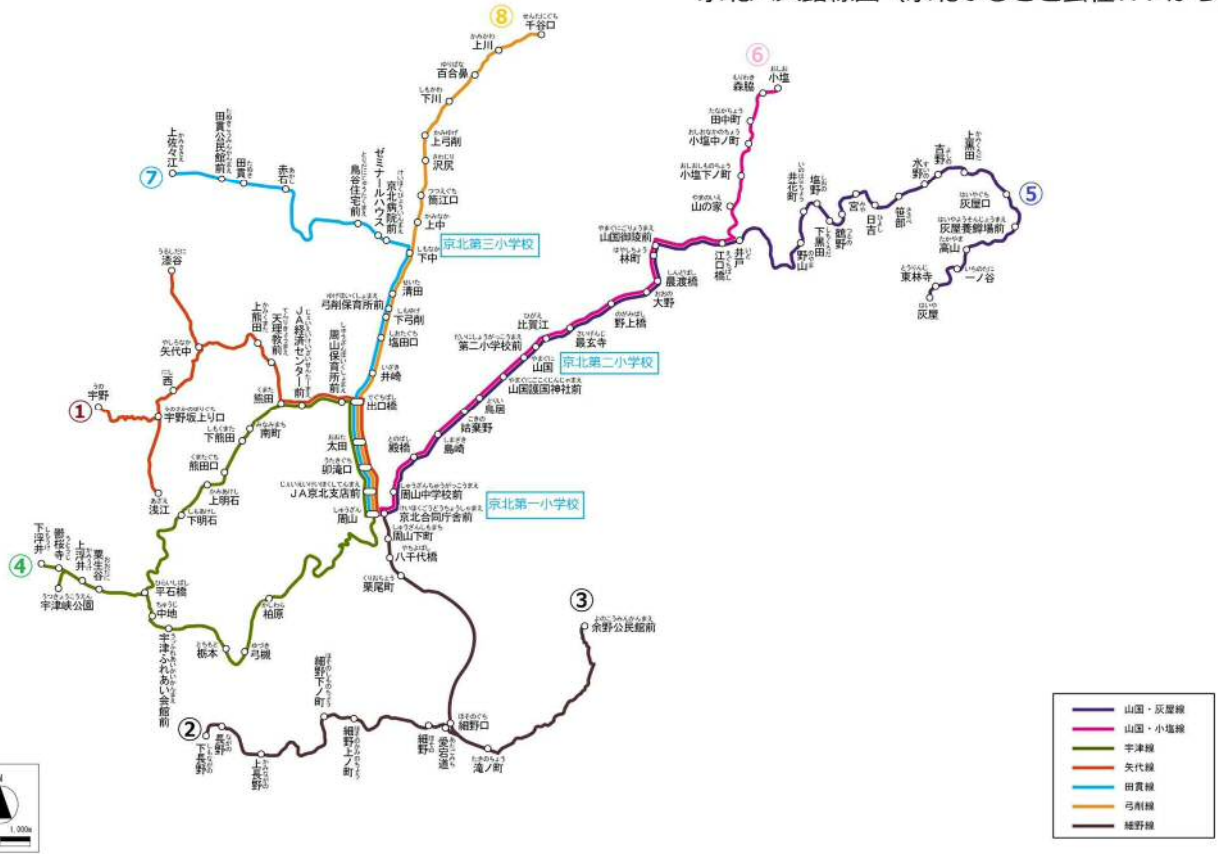
学校統合により、遠距離となる地域(京北第二小・京北第三小校区)

○周山中を起点とした距離・時間

校 区	バス停	距離	時間
京北第二小	灰屋口	約15km	28分
	小塩	約11km	22分
京北第三小	上川	約10km	18分
	田貫公民館前	約9km	17分

*バス停は、現在、児童生徒が居住する最遠地
*時間はふるさとバスの時刻表から算出

京北バス路線図（京北ふるさと公社HPから）



資料3

京北地域小中一貫教育校検討協議会
第1回通学安全検討部会資料

京北ふるさとバスの現状と課題

1. 京北ふるさとバスの現状

(1) 運行路線と運賃

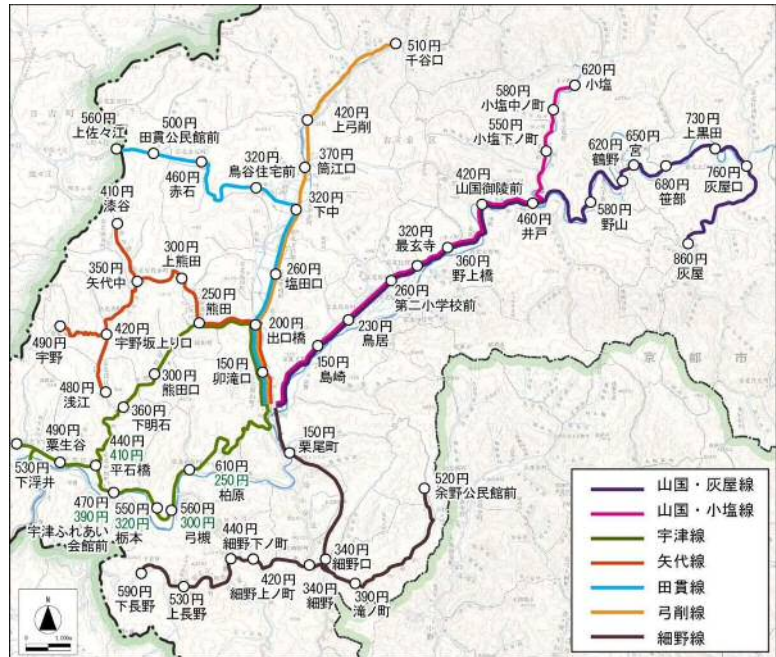
【運行本数(平日)】

- 山国・灰屋線: 5往復
- 山国・小塩線: 5往復
- 宇津線: 2往復 + 3循環
- 矢代線: 5往復
- 田貫線: 8往復
- 弓削線: 5往復
- 細野線: 5往復

【運行時間(周山発)】

- 7時台
- 8時台
- 9時台(田貫線のみ)
- 13時台(田貫線のみ)
- 14時台
- 15時台(田貫線のみ)
- 16時台
- 18時台

＜ふるさとバスの運行路線と運賃＞



1. 京北ふるさとバスの現状

(2) 利用者数と運賃収入(平成27年度)

【利用者数】

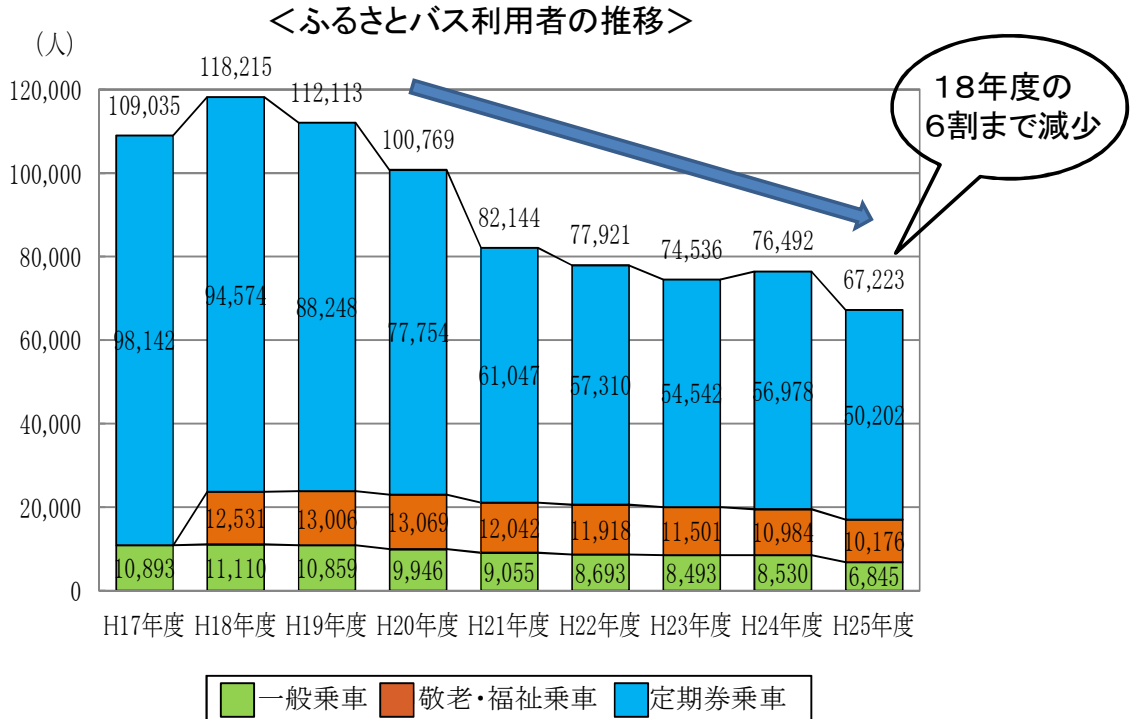
➢ 定期券利用者(小・中学生の通学)	48,548人(73.0%)
➢ 敬老・福祉乗車証利用者	10,509人(15.8%)
➢ 一般乗車	7,429人(11.2%)
合 計	66,486人

【運賃収入】

➢ 定期券収入(小・中学生の通学)	約1,370万円(74.0%)
➢ 敬老・福祉乗車交付金	約 190万円(10.3%)
➢ 現金,回数券収入	約 290万円(15.7%)
合 計	約1,850万円

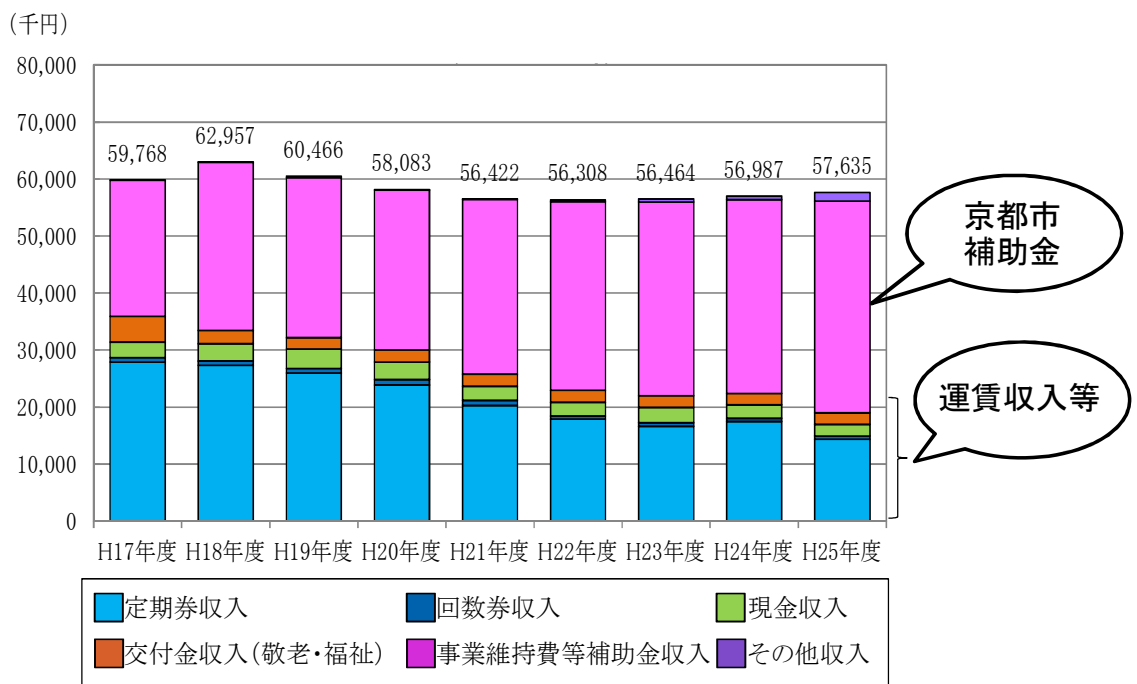
1. 京北ふるさとバスの現状

(3) 利用者数の推移



1. 京北ふるさとバスの現状

(4) 運営状況 (補助金額が全収入の 1/2 (H17) ⇒ 2/3 (H25) に増加)



2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(1) ふるさとバスの現状を踏まえた対応策

【効率的な運行の社会実験】

- ① ふるさとバスとスクールバスの一体的な運行
宇津線における一体的な運行
- ② 同じ経路を運行している路線の統合
小塩線, 灰屋線の一体的な運行
弓削線の京北病院への立寄りによる, 田貫線の減便

【地域の実情に応じた運行の社会実験】

- ① 北桑田高校生向けの帰宅便の運行
- ② 京北病院玄関口への立寄り
- ③ 昼間お出かけ支援バスの運行

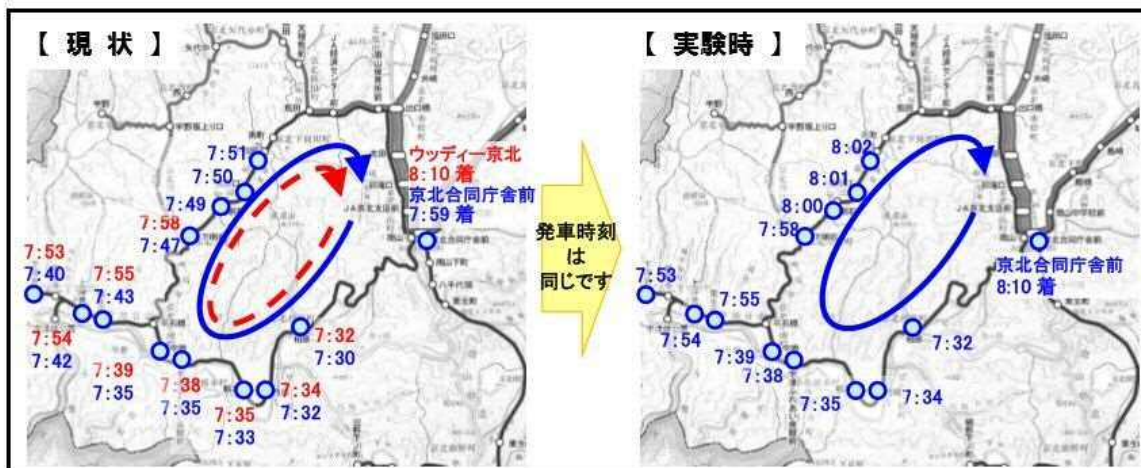
2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(2) 効率的な運行の社会実験

① ふるさとバスとスクールバスの一体的な運行〔宇津線〕

【実験内容(登校時のみ)】

- 実験期間: 平成28年9月26日～平成29年3月(今年度授業終了日まで)
- 運行ルート: スクールバスの運行に合わせる。
- 運行ダイヤ: スクールバスの運行に近いダイヤに変更。



凡例 赤文字: スクールバス時刻 青文字: ふるさとバス時刻 ○小・中学生の乗降バス停

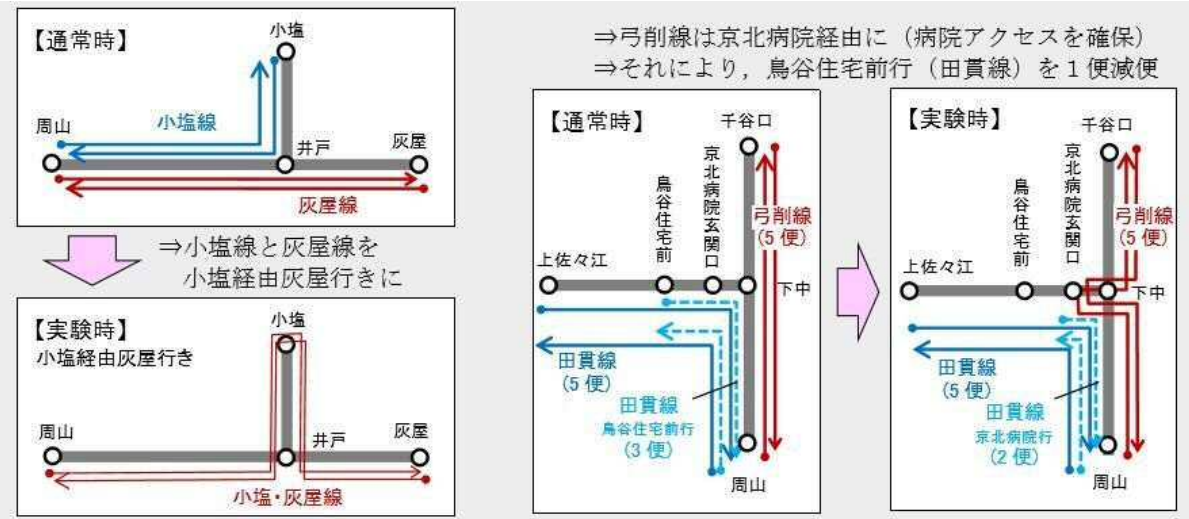
2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(2) 効率的な運行の社会実験

② 同じ経路を運行している路線の統合(9月1日～3月31日まで)

【小塩線・灰屋線の効率的な運行】
(平日限定)

【田貫線・弓削線の効率的な運行】
(平日限定)



2. 近年の京北ふるさとバスにおける取組

(3) 地域の実情に応じた運行の社会実験

① 北桑田高校生向けの帰宅便の運行

【クラブ活動終了後に利用できるバスの運行】

➢ 帰宅用の夜間便2便を運行(平日限定)

(9月1日～3月31日まで)

【北桑田高校生向け運賃割引】(毎日実施)

➢ 運賃1回上限200円[乗継0円](毎日実施)

(5月16日～3月31日まで)

H27実績: 実験前, 約4人/日

⇒ 実験後, 約18人/日に増加

② 京北病院玄関口への立寄り

➢ 朝7時台の便を除く全ての弓削線が、京北病院玄関口まで運行(平日限定)

(9月1日～3月31日まで)



3. 京北ふるさとバスの運行継続の課題

(1) 少子化に伴う定期券収入の減少

運賃収入の74%を占める定期券収入が、少子化に伴い減少が続
き、京北ふるさとバスの運営が厳しくなっている。

一方、高齢者の増加に伴い、安全な車の運転が難しい方が増加し、
地域の足として京北ふるさとバスを存続することは必要である。

(2) 運転手不足による運行継続の不安

中学生の通学を確保するために、現在、7路線で運行しており、安
全に運行するためには、常時9名の運転手が必要となっている。

バス業界では恒常的に運転手不足に悩まされており、京北ふるさ
とバスも例外ではなく、現在、ギリギリの状態で行っている。

資料4 バス通学において走行する経路(道路)

提 案

冬季の積雪・凍結、バス車両の転回、通学所要時間等を考慮し、1年間を通じて子
どもたちが安全かつ安定して通学できるようにするために、現在ふるさとバスが走行
している道路を走行することを基本とする。

今後、乗車対象地区、乗車場所、運行方法等について協議を進める。



主な意見

運行時刻	部活もある中学生と小学校1年生が同じ時間帯に帰るわけにもいかない。教育課程と連動してバスの在り方を考える必要がある。
運行経路等	従来の徒歩通学に加えてバス乗車が必要になる地区に配慮が必要。バスを当該地区まで入らせる考えはないのか。
	灰屋口の子どもは、小塩を経由した場合、乗車時間が長くなり、低学年には負担である。
	弓削地区のふるさとバスは、上弓削は旧道を走っているが、下弓削は国道（162号）を走っている。住居の大半は旧道沿いにあり、そこから国道までは距離があるため通学用のバスは旧道にも入ってほしい。
バスの運行方法等	山国の殿橋周辺は歩道がなく、歩くには危険なため、安全確保に配慮してほしい。
	通学バスの形態はスクールバスになるのか、ふるさとバスになるのか方針を決めてもらいたい。
	通学バスの形態はスクールバスが良い。 ふるさとバスの利便性を高め、混乗で通学するのが良い。市街地では市バスで通学することは普通のことである。スクールバスだけにすると、将来の京北の公共交通や地域の足がどうなるか。

今後の予定

第2回 29年2月頃 乗車対象地区の検討他